中学校教科体育授業で生じる「表と裏」の現象

渡　邊　義　行[1)]・　中　嶌　康　貴[2)]

On the positive and negative phenomenon observed for the physical education lessons in junior high school

Yoshiyuki　Watanabe[1)]　and　Yasutaka Nakasima[2)]

キーワード：中学校教科体育，表裏の現象，好き嫌い，教師，勝敗，評価
Key words：physical education lesson, positive and negative phenomenon, feeling of like or dislike, teacher, victory or defeat, evaluation

Ⅰ．目　的

中学校学習指導要領による教科保健体育の究極の目標[1)]は，「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことである。すなわち，「生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力，健康で安全な生活を営む実践力及びたくましい心身を育てることによって，現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」[1)]ことである。したがって，生徒に「生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する」ためには，「運動・スポーツは好きである」ことが前提とされよう。

1996年渡邊ら[2)]は，小学校高学年と中学校の「教科体育の好き・嫌い」に関する調査を行い，「中学生の教科体育の好き者」は男子63.6%，女子51.1%であり，「嫌い者」は男子9.3%，女子26.0%であったとした。さらに1997年に渡邊ら[3)]は，小学１年生から大学生までの12学年を対象に，「運動と教科体育の好き・嫌い」の経年推移を調査し，中学生の「運動も教科体育も好き者」は男子中1‐83.4%，中2‐86.5%，中3‐82.4%，女子中1‐69.3%，中2‐63.1%，中3‐54.7%であり，中学生の「運動も教科体育も嫌い者」は男子中1‐9.3%，中2‐2.0%，中3‐7.8%，女子中1‐15.9%，中2‐19.7%，中3‐20.7%であったと報告した。

このように「教科体育の好き者」と「教科体育の嫌い者」は現実に存在している。ここで「教科体育の好き者」を「表」とすると，「教科体育の嫌い者」を「裏」と表現できよう。つまり，同じ教科体育を実践していても生徒にとって「好き者」と「嫌い者」の「表と裏」の現象が生ずるものである。それでは，教科体育のどのような場面で「表裏」の現象が見られるのであろうか。

以上のことから，本研究の目的は，中学生を対象にして教科体育のどのような場面で「表裏」の現象が見られるのかについて質問紙法により調査し，「表裏」の関係の量的実態を明らかにしながら，「表裏」の質について考察し，教科体育授業実践のための基礎的資料を得ることであった。

１）岐阜大学教育学部保健体育講座　Department of physical education, Faculty of education, Gifu university
２）揖斐郡池田町立池田中学校　Ibi-gun, Ikeda-cho, Ikeda junior high school

Ⅱ．方　法

１．調査対象者

調査の対象となった中学校は，岐阜県に所在するＡ，Ｂ，Ｃ中学校の3校であった。調査対象とした学年は，中学2年生と中学3年生であった。中学1年生は未だ小学校時代の感想や影響を持っているかも知れないと考えたので，調査対象から除いた。調査対象となった生徒の人数は表1の通りであり，男子計210人，女子計203人，総計413人であった。

表１　対象中学校と生徒数

	計	男子	女子
A中学校	31	15	16
B中学校	132	63	69
C中学校	250	132	118
総計	413	210	203

２．調査時期

調査を行った時期は，1997年11月から12月であった。

３．調査内容

質問紙によって調査した内容は，表2の通りであった。質問の項目数は総計8項目，全12質問内容であった。それぞれの質問内容について「好きか？嫌いか？」を尋ね，次いでその理由を自由に記述させた。さらに，「好き者」には「特にどういう運動種目が好きか？」，「嫌い者」には「特にどういう運動種目が嫌いか？」を尋ねた。

表２　質問の項目と内容

質　問　項　目	質　問　内　容
体育授業に対する質問	体育授業の好き，嫌い
一番好きな運動種目	① 柔軟体操，スポーツテスト　②マット　③鉄　棒　④跳び箱 ⑤短距離走，ハードル走　⑥走幅跳，走高跳　⑦長距離走 ⑧水　泳　⑨サッカー　⑩バスケットボール　⑪バレーボール ⑫ダンス　⑬柔　道　⑭剣　道
一番嫌いな運動種目	
教師についての質問	・ 教師の個人指導の好き，嫌いとその理由 ・ 教師の声かけ，話しかけの好き，嫌いとその理由 ・ 教師が一緒に試合などに加わることの好き，嫌いとその理由
勝敗や順位についての質問	勝敗や順位が生ずることの好き，嫌いとその理由
評価を受けることの質問	生徒が評価を受けることの好き，嫌いとその理由
集団活動についての質問	・ 授業でのグループ活動の好き，嫌いとその理由 ・ 自分のプレイがクラスの皆に見られていることの好き，嫌いとその理由
生徒の意識についての質問	・ 汗をかくことが好き，嫌いとその理由 ・ 簡単にできる運動が好き，嫌いとその理由 ・ 難しい運動をすることが好き，嫌いとその理由

４．統計処理

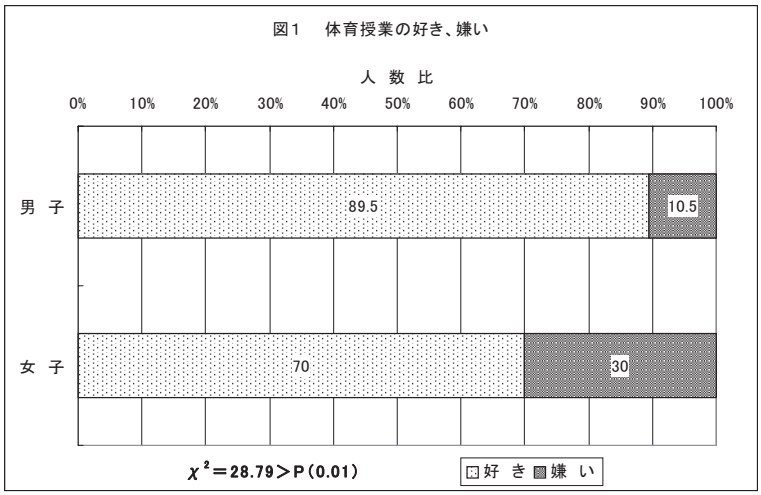
本報における調査結果の数値は，総計413人の調査において訴えた人数から，すべて人数比（%）で表した。なお，人数比の男女間差の統計的な有意性についてはχ^2検定し，有意水準の危険率は５%以下とした。

Ⅲ．結果と考察

１．体育授業の好き・嫌い

体育授業の好き・嫌いを尋ねたところ，結果は図1の通りであった。「好き・どちらかといえば好

きな者」は，男子89.5%，女子70.0%であった。「嫌い・どちらかといえば嫌いな者」は，男子10.5%，女子30.0%であった。体育授業の「好き，嫌い」と男女の性差間には有意差（p＜0.01）があった。



教科体育の「好き・嫌い」に関する調査は，渡邊らが1996年[2]と1997年[3]に行っている。1996年の渡邊ら[2]の報告によれば，「教科体育が好きな中学生」は男子63.6%，女子51.1%であり，「教科体育が嫌いな中学生」は男子9.3%，女子26.0%であった。1997年の渡邊ら[3]の報告によれば，「教科体育が好きな者」は男子中2‐86.5%，中3‐82.4%，平均84.4%であり，女子中2‐63.1%，中3‐54.7%，平均58.9%であった。したがってこれら渡邊らの報告[2, 3]によれば，中学生の「教科体育が好きな者」は男子63.6%の場合と84.4%の場合であった。今回の男子中学生の「教科体育が好き・どちらかといえば好き者」は89.5%であったので，渡邊ら[2, 3]の「好き者」比率と比べて高い値といえる。本報においては，「好き」と「どちらかといえば好き」を１つにまとめて「好き者」としたので，高い値となったのであろう。それにしても男子中学生の約９割が「教科体育は好き」と答えていることは明記しておきたい。

女子中学生の「教科体育が好き・どちらかといえば好き者」は70.0%であった。渡邊らの報告[2, 3]による女子の「教科体育の好き者」は70%の場合と，中2‐63.1%，中3‐54.7%，平均58.0%の場合であったので，今回の女子中学生の「教科体育の好き者」70.0%という値は，ほぼ渡邊らの報告[2, 3]の場合と同じかやや低い値といえよう。

一方，男子中学生の「教科体育の嫌い者」は10.5%であった。渡邊らの報告[2, 3]による男子中学生の「教科体育の嫌い者」は，9.3%の場合と中2‐2.0%，中3‐7.8%，平均4.9%の場合であった。したがって今回の男子中学生の「教科体育の嫌い者」は約１割であったので，この値は渡邊ら[2, 3]の値より若干多い値であったといえよう。

女子中学生の「教科体育が嫌い・どちらかというと嫌い者」は30.0%であった。渡邊らの女子中学生の報告[2, 3]によれば，26.0%の場合と中2‐19.7%，中3‐20.7%，平均20.2%の場合であった。今回の女子中学生の「教科体育の嫌い者」は約3割であったので，渡邊らの報告[2, 3]よりも高い値であった。

２．一番好きな運動種目

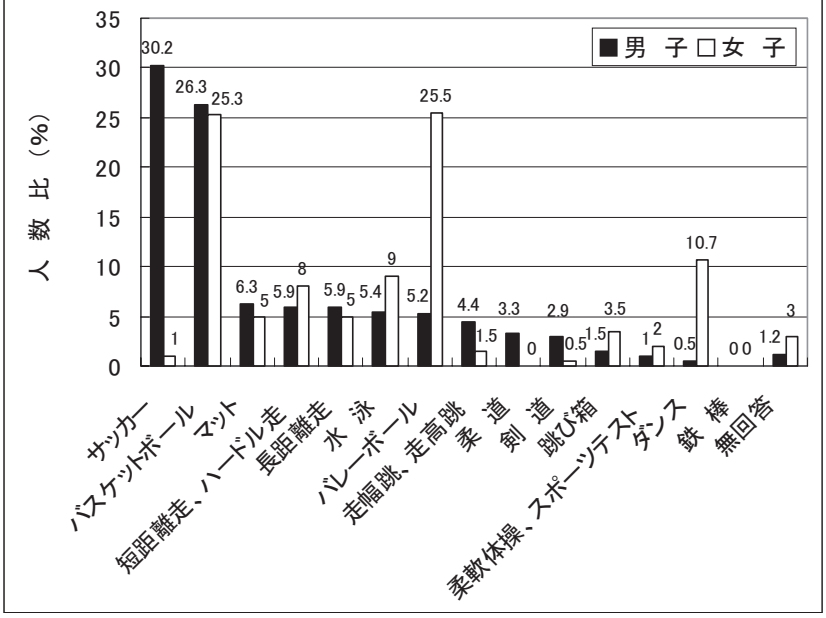
中学校教科体育における運動教材を14種目掲げ，このうち1番好きな種目を1種目選ばせた。結果は図2に示した。男子の「1番好きな種目」の第1位は「サッカー」30.2%であった。第2位は「バスケットボール」26.3%であった。第3位以下の種目はすべて10%以下という実態であった。男子中学生の過半数が「サッカー」と「バスケットボール」の2種目で占められていた。

女子の「1番好きな種目」は「バレーボール」25.5%であり，次いで「バスケットボール」25.3%であった。女子の第3位は「ダンス」10.7%であり，かなりの好感度で受け入れられていた。女子の第4位以下の種目はすべて10%以下の支持率であった。

このように「一番好きな運動種目」は，男子「サッカーとバスケットボール」，女子「バレーボールとバスケットボール」の2種目で過半数を占めた。中学生は集団的種目である「球技が好き」のよ

うである。それに対して，器械運動の「鉄棒」は男女とも支持者は0%であった。中学生にとって「鉄棒」教材は受け入れ難いようである。「鉄棒運動」を否定的に感じている理由として，「鉄棒運動」は克己型の運動であるので，「出来・不出来」が明確に現れることとなり，したがって「不出来」の表示回避となって表れることが考えられる。

図2　一番好きな運動種目



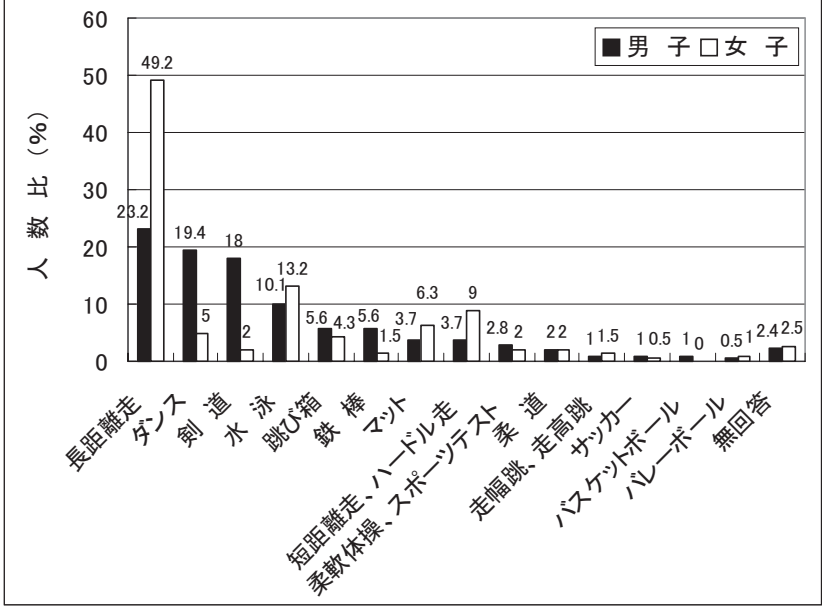
３．一番嫌いな運動種目

「一番嫌いな運動種目」を尋ねると，図3のように，男子は「長距離走」23.2%，次いで「ダンス」19.4%，「剣道」18.0%，「水泳」10.1%の順であった。この4種目で70.7%を占めた。第5位以下の種目はすべて10%以下の訴えであった。女子は「長距離走」49.2%，次いで「水泳」13.2%であり，第3位以下は訴えが10%以下の種目であった。男女とも「1番嫌いな運動種目」は「長距離走」が第1位であった。なぜ「長距離走」は中学生にとって「一番嫌いな種目」となっているのであろう。教師の授業の仕方に問題がないかについて考える必要があるように思われる。

対象が大学生ではあるが，著者は大学共通教育の体育実技の授業において「ジョギング」を開講している。第1回目の授業は運動種目分けを行うのであるが，定員40名のところ120名も希望者がある状況である。学生には事前に授業シラバスは配布されており，あらかじめの授業内容は推察できるようになっているが，それにしてもこのように好人気である。シラバスの内容に，「おしゃべりしながら，ジョギングをしよう」「自分のペースでジョギングをしよう」と書いた。学生たちは「競争でない運動」はしたいのである。「人より速く」「ハァ―ハァー・ゼーゼー」といった運動はしたくないのである。恐らく中学生たちの教科体育「長距離走」においては，「人より速く」「ハァ―ハァー・ゼーゼー」の授業を行っているのではないか。「運動が嫌いになるような授業」をしているのではないかと懸念されるところである。

女子の「水泳」は第2位の「嫌い種目」であった。女子中学生特有の自己の体への心理状態が表れているのではなかろうか。「水着になる」ことが

図3　一番嫌いな運動種目



厭で，「他人に体を見られる」ことが厭といったことであろう。例えば，「男女同時にプールに入れる」ことは避けるような配慮は必要であろう。

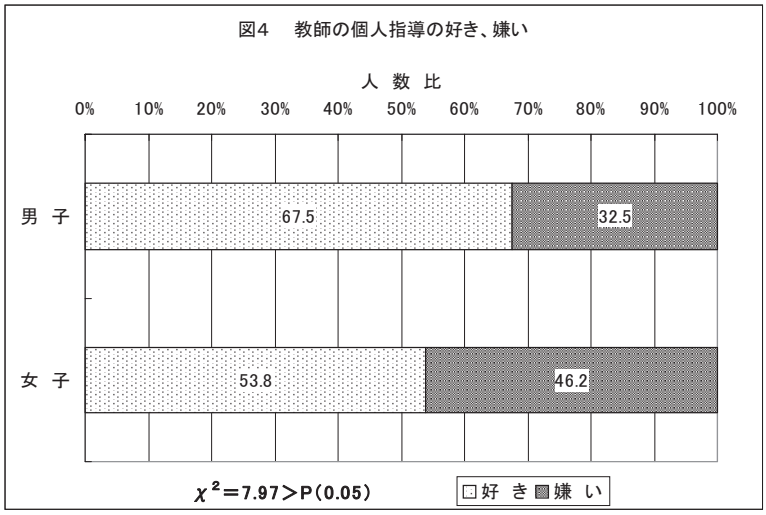
男子の嫌いな種目の第2位が「ダンス」であった。「ダンス」は女子が行うものとするイメージがあるのであろう。現行の中学校学習指導要領[1]では，「武道とダンス」は選択して授業を行うことになっているから，おそらく教育現場では，男子は「武道」を選択する者が多いものと推察される。したがって，男子に「ダンス」を取上げる場合には，動機づけ等特に配慮した指導が必要であろう。

男子の嫌いな種目の第3位は「剣道」であった。「剣道」という「日本古来の雰囲気」あるいは「汗で塩が噴き出ている面や籠手」を使用する不衛生感といったことが今日の中学生に受け入れ難くしているのではないか。同じ武道でも「柔道」を嫌う者は2.0％しかいない。このあたりへの教師の配慮が求められよう。

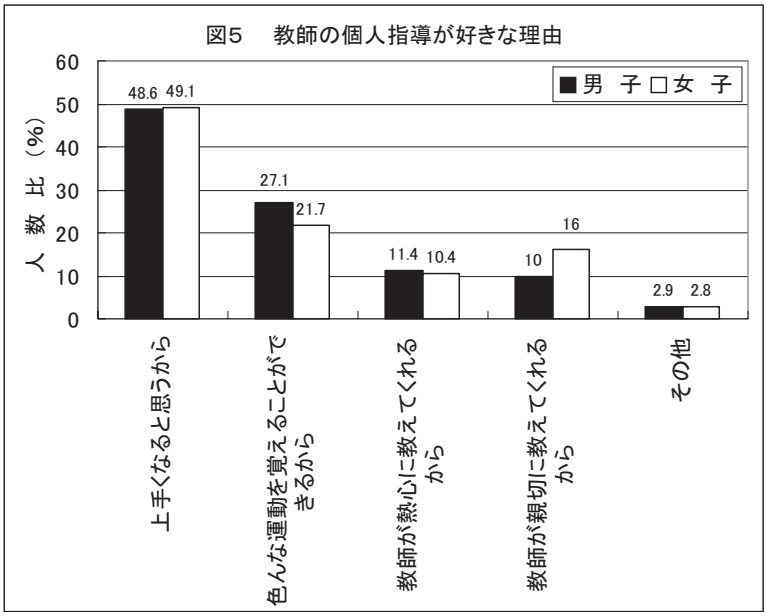
4．教師について

1）教師の個人指導について

「教師が生徒に近づき，個人指導している」ことについて，どう思うかについて尋ねた結果は，図4に示した。「教師の個人指導」を肯定的に受け入れた生徒は男子67.5％，女子53.8％であり，否定的な者は男子32.5％，女子46.2％であった。このように「教師の個人指導」は，男子の約7割が肯定し，約3割が否定した。これに対し女子は肯定・否定がほぼ半々であった。男子の方が女子より肯定者が有意（P＜0.05）に多かった。

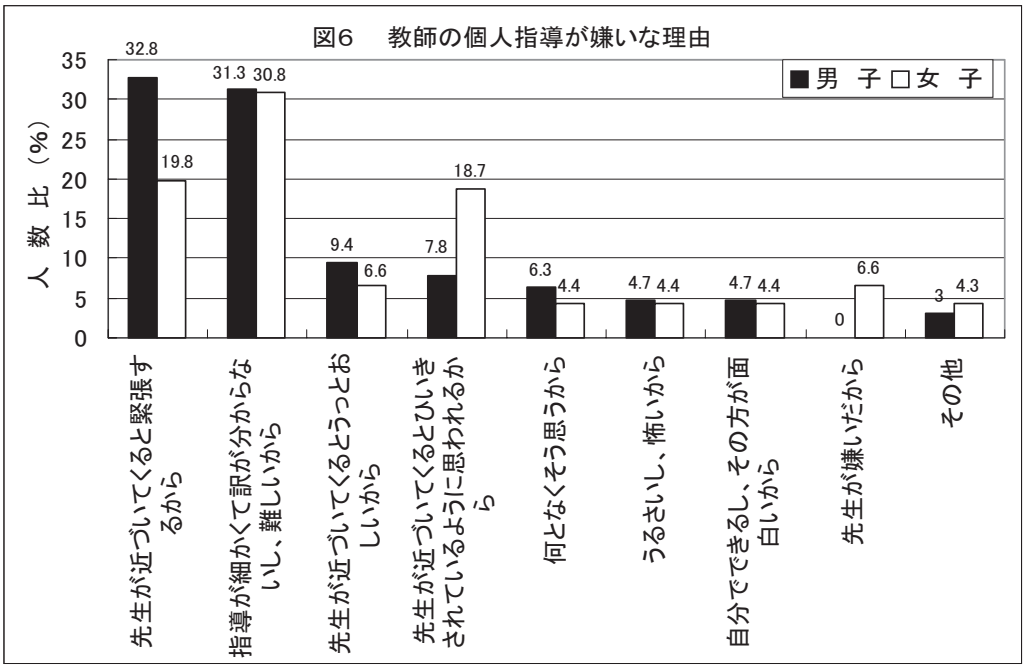


「教師の個人指導」を受け入れる理由については，図5に示した。「上手くなると思うから」が男子48.6％，女子49.1％で最も多かった。次いで，「色んな運動を覚えることができるから」が男子27.1％，女子21.7％であった。自分を高めたいという意識をもっている者は「教師の個人指導」を受け入れていた。

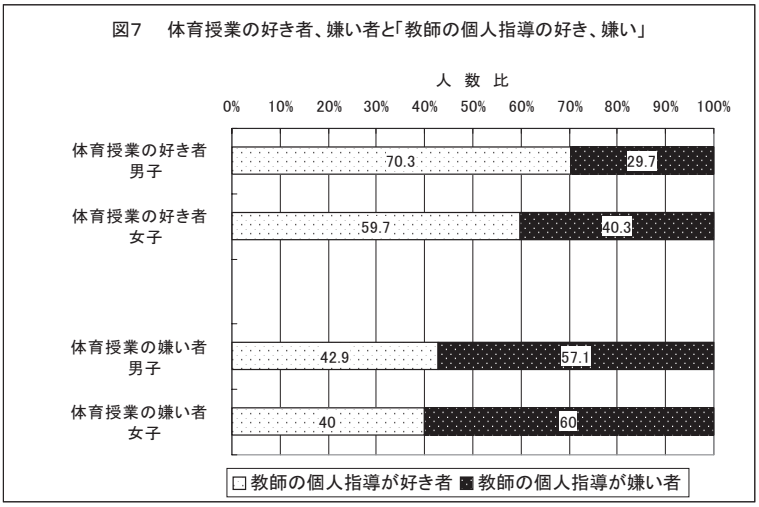


「どういう運動種目」に「教師の個人指導」を受け入れているかについて尋ねたところ，169名の回答があり，「マット」39.6％，「バスケットボール」23.7％，「短距離走・リレー・障害走」13.0％が多かった。

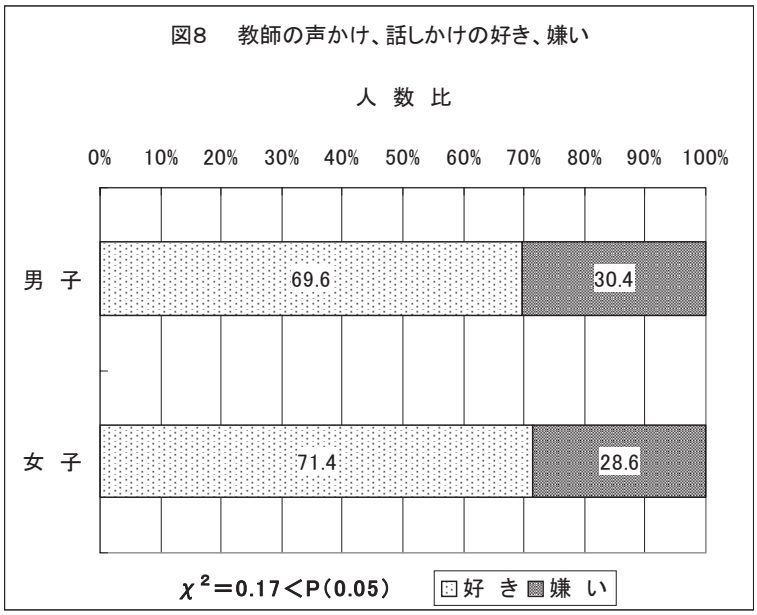
「教師の個人指導」を否定する理由については，図6に示した。男女とも訴えが多かったのは，「指導が細かくて訳が分からないし，難しいから」男子31.3％，女子30.8％であった。「先生が近づい



てくると緊張するから」という理由で個人指導を否定的にとらえる者が男子32.8%いた。女子は男子よりこの理由は少なく19.8%であった。それに対し「先生が近づいてくるとひいきされているように思われるから」は女子が18.7%であったが，男子は7.8%と少なかった。中学女子特有の意識なのであろう。「先生が近づいてくるとうっとおしいから」が男子9.4%，女子6.6%あった。最も否定的な理由として，女子中学生のみに「先生が嫌いだから」が6.6%あった。



「どういう運動種目」に「教師の個人指導」を受け入れないのかについて尋ねると，62人の回答があり，「マット」33.9%，「バスケットボール」14.5%，「短距離・リレー・障害走」12.9%の順であった。この運動種目は個人指導を受け入れる種目と同一順であり，中学生の複雑な心境を表している。



次に，本報設問において最初に尋ねた「教科体育授業は好きか？嫌いか？」の結果にもとづいて，「教師の個人指導の好き，嫌い」との間の

クロス集計を行った。結果は，図7に示した。「教科体育の好き者」の「教師の個人指導の好き者」は男子70.3%，女子59.7%であった。それに対して「教科体育の嫌い者」の「教師の個人指導好き者」は男子42.9%，女子40.0%と少なくなった。「教科体育の嫌い者」の「教師の個人指導嫌い者」は男子57.1%，女子60.0%と多かった。

以上，「教師の個人指導」は，肯定する生徒と否定的に捉える生徒がいること，そして「教師の個人指導」を肯定する者は「教科体育が好き」である者が多いこと，逆に「教師の個人指導」を否定的に捉える者は「教科体育が嫌い」とする者に多く見られた。このように「教師の個人指導」に対しての生徒の受け止めには「表裏」の現象があり，「教師の個人指導」の熱心さがすべての生徒に受け入れられるとは限らない。このことは，個々の生徒の個性に応じた指導をしなければならないことを示している。

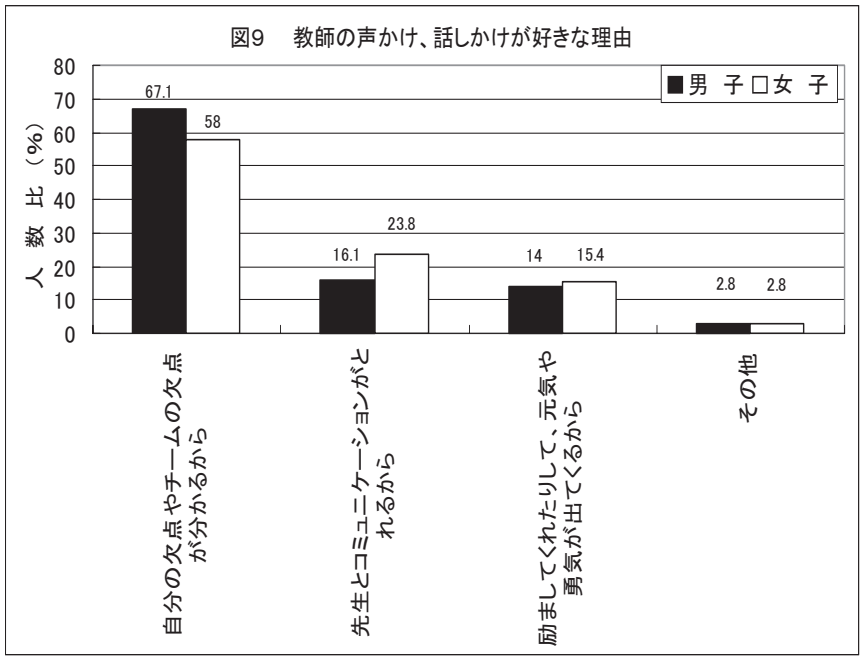
2）教師の声かけ，話しかけについて

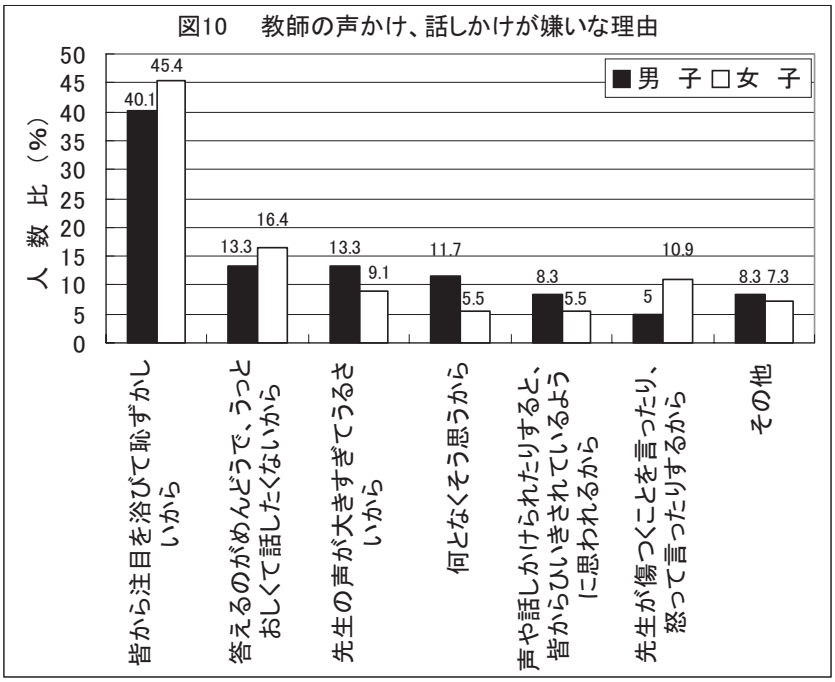
「教師が生徒によく声をかけたり，話しかけたりする」ことについては図8のように，肯定的に受け入れた生徒は男子69.6%，女子71.4%であった。また，男女間の受け入れ比率に有意差はなかった。

「教師の声かけ，話しかけ」を肯定する理由については，図9に示した。「自分の欠点やチームの欠点が分かるから」が男子67.1%，女子58.0%で最も多く，次いで「先生とコミュニケーションがとれるから」が男子16.1%，女子23.8%であった。第3位は，「励ましてくれたり，元気や勇気が出てくるから」が男子14.0%，女子15.4%であった。

「教師の声かけ，話しかけ」を肯定する生徒に，「特にそう思う運動種目」を尋ねたところ，169人の回答があり，「バスケットボール」39.3%，「バレーボール」13.7%，「マット」12.5%，「ダンス」11.9%であった。

「教師の声かけ，話しかけ」





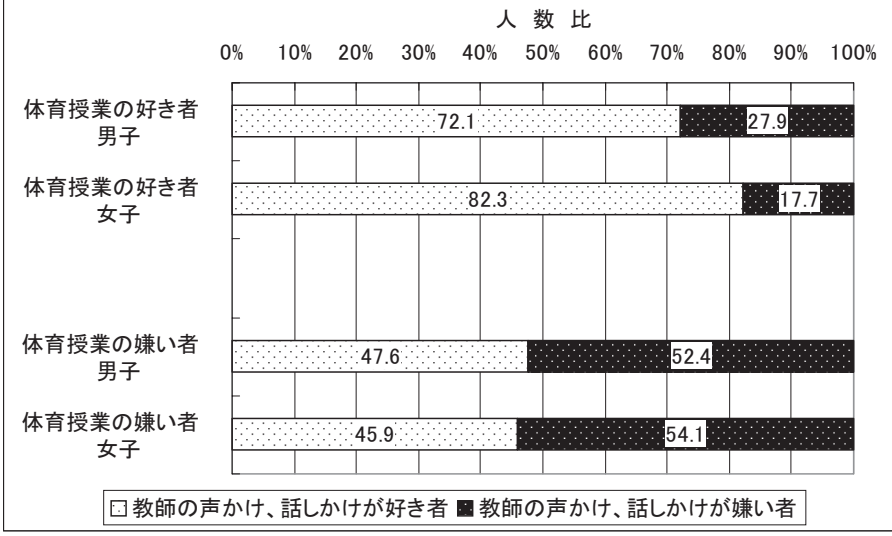
を否定する理由については，図10に示した。第1位は，「皆から注目を浴びて恥ずかしいから」が男子40.1％，女子45.4％であった。第2位の人数比は急に少なくなって，「答えるのがめんどうで，うっとおしくて話したくないから」が男子13.3％，女子16.4％であった。第3位は，「先生の声が大きすぎてうるさいから」が男子13.3％，女子9.1％であった。中学生の頃の「反抗期」による理由であろう。

「教師の声かけ，話しかけ」を否定する生徒に，「特にそう思う運動種目」を尋ねたところ，「バスケットボール」27.3％，「短距離走・ハードル走」18.2％，「サッカー」15.2％が多く訴えられた。なお，これに対する回答者数は33人であった。

次に，「教科体育の好き者，嫌い者」と「教師の声かけ，話しかけ」との間のクロス集計を行った結果は，図11に示した。「教科体育の好き者」にとって「教師の声かけ，話しかけ」を受け入れた者は男子72.1％，女子82.3％の多さであった。それに対し，「教科体育の嫌い者」は「教師の声かけ，話しかけ」を否定するものが多く，男子52.4％，女子54.1％であった。

以上，「教師の声かけ，話しかけ」に対する生徒の受け入れ状態には，約7割が肯定しているが，残る3割は否定していた。したがって「教師の声かけ，話しかけ」には「表裏」の現象があることが示された。教師が生徒に「声かけ，話しかけ」をする時には，特に気をつけて注意して「声かけや話しかけ」をしなければならない。教師の不注意な発言が生徒を傷つけている場合があるということである。特に「教科体育の嫌い者」にとって，「教師の声かけ，話しかけ」は慎重でなければならない。

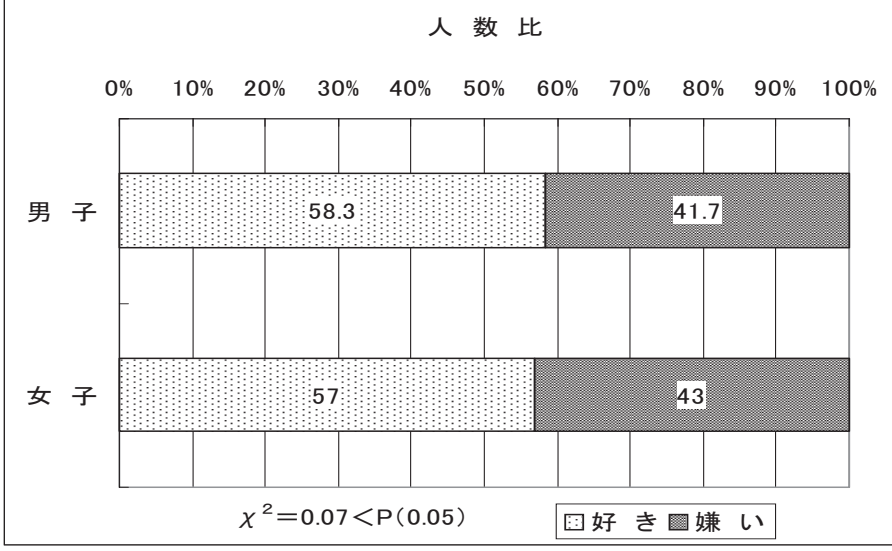
図11　体育授業の好き者、嫌い者と「教師の声かけ、話しかけ」



３）教師が一緒に試合などに加わることについて

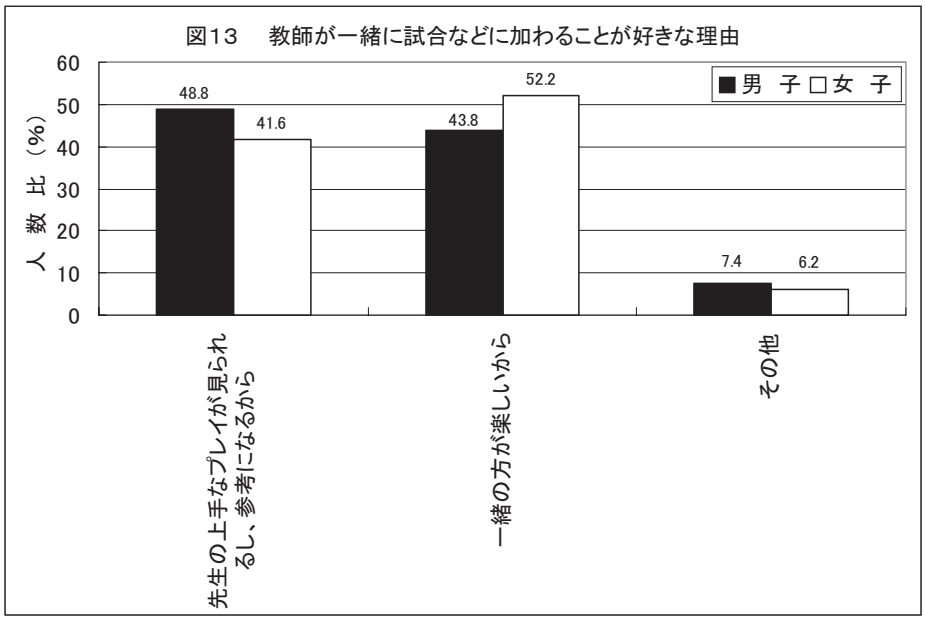
「教師が一緒に試合などに加わる」ことの可否について尋ねた結果は，図12のとおりであった。「教師が一緒に試合などに加わる」ことを受け入れる生徒は，男子58.3％，女子57.0％であり，約6割の生徒が肯定的な答えであった。男女の間に差はなかった。逆に「教師が一緒に試合などに加わる」ことを否定した生徒は，男子41.7％，女子43.0％であった。こ

図12　教師が一緒に試合などに加わることの好き、嫌い

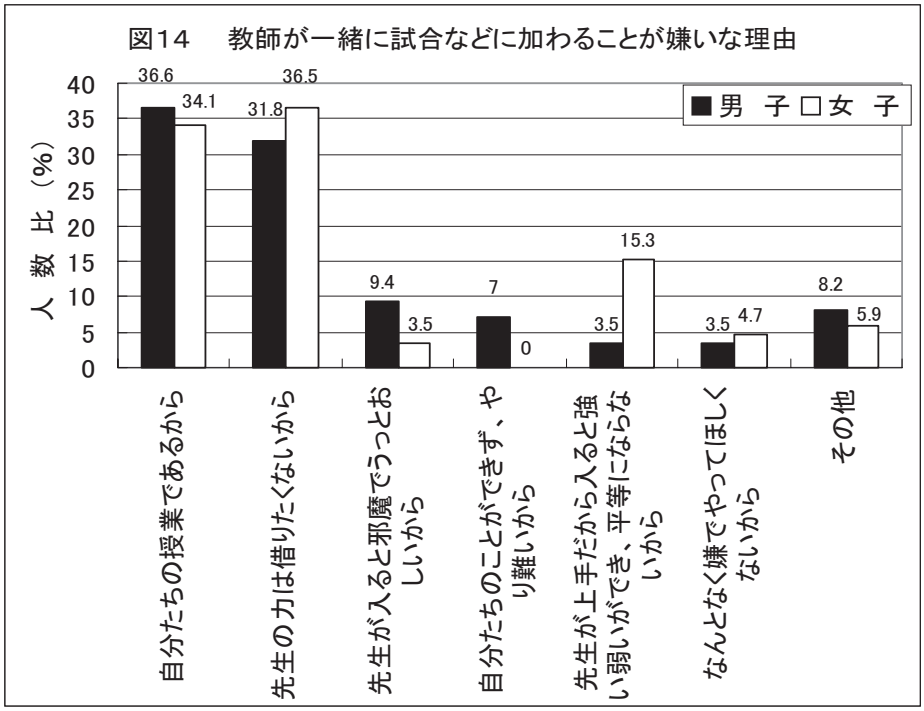


のように，約4割の生徒が「教師が一緒に試合などに加わる」ことはしたくないと訴えた。

「教師が一緒に試合などに加わる」ことを肯定した生徒にその理由を尋ねると，図13のような答えであった。「先生の上手なプレイが見られるし，参考になるから」男子48.8%，女子41.6%，「一緒の方が楽しいから」男子43.8%，女子52.2%であった。



「どのような運動種目」で「教師が一緒に試合などに加わる」ことを肯定しているのかを尋ねると，149人の回答があり，「バレーボール」34.2%，「バスケットボール」29.5%，「サッカー」16.1%という球技型の運動が多く出てきた。



「教師が一緒に試合などに加わる」ことを否定した生徒にその理由を尋ねると，結果は図14のとおりであった。「自分たちの授業であるから」男子36.6%，女子34.1%，「先生の力は借りたくないから」男子31.8%，女子36.5%であり，この二つの理由で約7割を占めた。この他に第3位の理由として，15.3%の女子に「先生が上手だから入ると強い弱いができ，平等にならないから」と9.4%の男子に「先生が入ると邪魔でうっとおしいから」であった。

「どのような運動種目」で「教師が一緒に試合などに加わる」ことを否定したのかを尋ねると，76人の回答があり，「バスケットボール」50.0%，「バレーボール」22.4%，「サッカー」18.4%が多くでてきた。これらの運動種目は，すべて球技型種目であり，また「教師が一緒に試合などに加わる」ことを肯定した運動種目でもあった。

「教科体育の好き者・嫌い者」と「教師が一緒に試合などに加わる」ことについてクロス集計した結果は，図15に示した。

「教科体育の好き者」が「教師が一緒に試合などに加わる」ことを肯定した比率は，男子56.5％，女子62.4％あり，否定した人数比は男子43.5％，女子37.6％であった。女子生徒に「教師が一緒に試合などに加わる」ことの肯定者が多い。それに対し，「教科体育嫌い者」の場合は，「教師が一緒に試合などに加わる」のを肯定する者は男子72.7％，女子44.1％，否定者は男子27.3％，女子55.9％であり，男子に肯定者が多かった。以上のように，「教師が一緒に試合などに加わる」ことには特に球技種目において肯定する者と否定する者がおり，「表裏」の現象があることが分かった。「教師が一緒に試合などに加わる」場合には，教師が加わる目的と意義を明確にさせて参加すべきであろう。軽率的，思いつき的な教師の参加はしないようにしたいものである。

図15　体育授業の好き者、嫌い者と「教師が一緒に試合などに加わることが好き者、嫌い者」

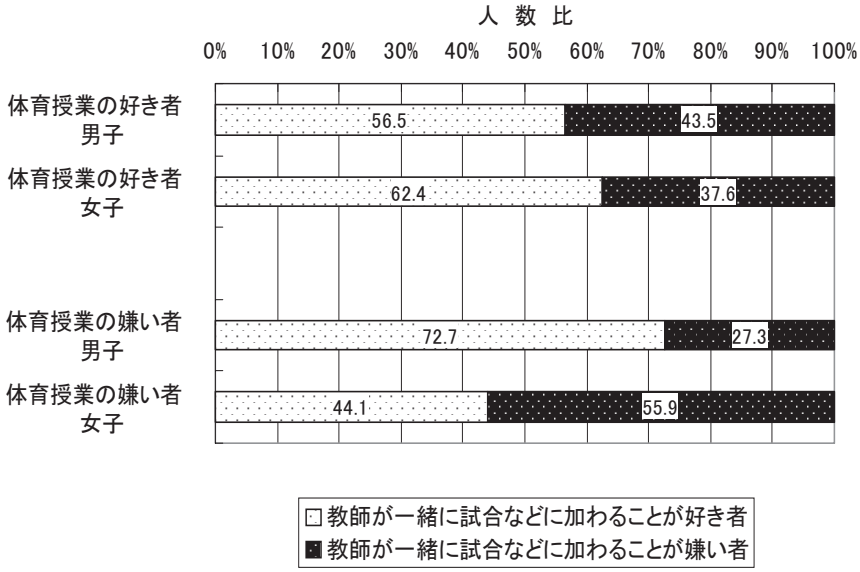
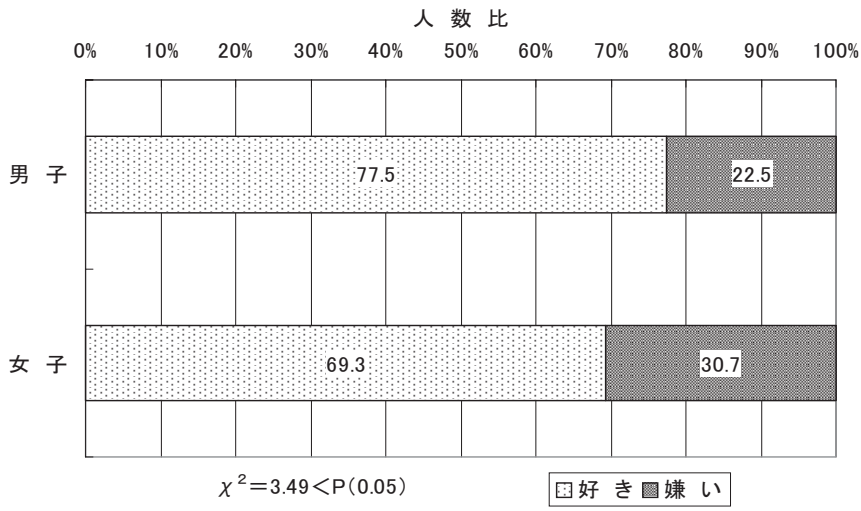


図16　勝敗や順位が生ずることの好き、嫌い



５．勝敗や順位について

中学校学習指導要領[1]によれば，「態度の内容」で「勝敗にたいして公正な態度がとれるようにする」となっている運動領域は，「陸上競技」「球技」「武道」の3領域である。これら運動領域においては必ず「競技やゲームや試合を行うこと」となっている。その結果，勝敗や順位が生じてくる。そこで「勝敗や順位が生ずること」についてその可否について尋ねた。結果は図16に示した。

「勝敗や順位が生ずること」を肯定する者は男子77.5％，女子69.3％であり，否定する者は男子22.5％，女子30.7％であった。それぞれの男女間に差はなかった。このように，約7割の者が「勝敗や順位が生ずること」を肯定し，約3割の者が否定していた。

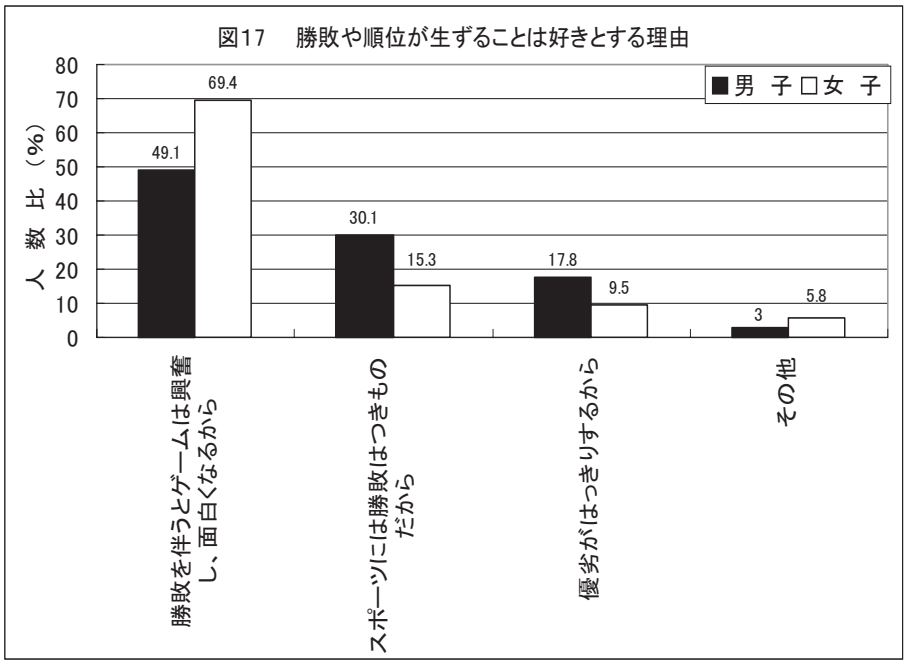
「勝敗や順位が生ずること」を受け入れる理由は，図17のように，「勝敗を伴うとゲームは興奮し，面白くなるから」男子49.1％，女子69.4％であり，次いで「スポーツには勝敗はつきものだから」が男子30.1％，女子15.3％であった。第3位が「優劣がはっきりするから」が男子17.8％，女子9.5％で

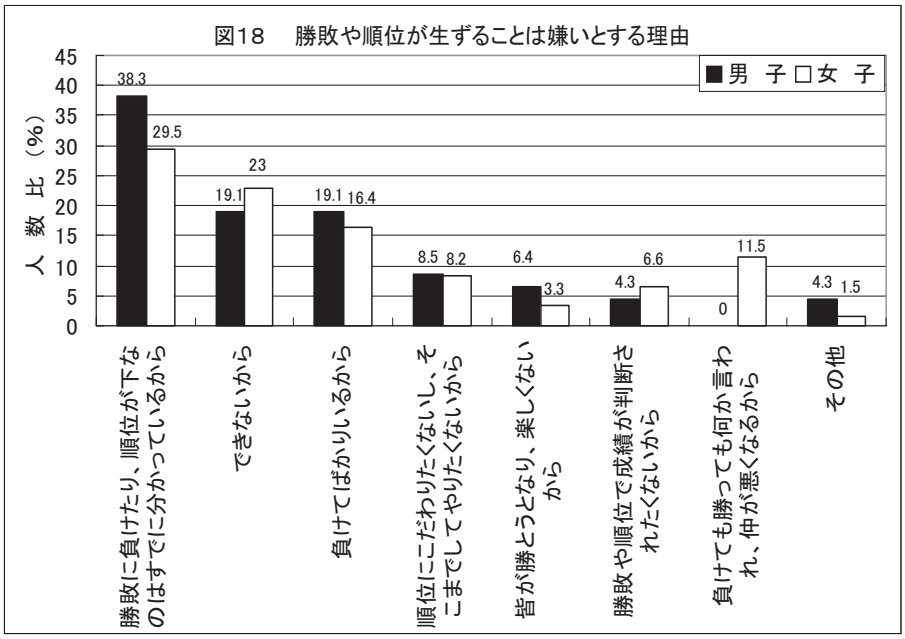
あった。

「勝敗や順位が生ずること」を肯定した生徒に，「特にそう思う運動種目」を尋ねたら，179人の回答中，バスケットボール56.4%，サッカー24.0%，バレーボール11.7%が多くあった。

「勝敗や順位が生ずること」を否定した生徒にその理由を尋ねたところ，図18に示したように，「勝敗に負けたり，順位が下なのはすでに分かっているから」が男子38.3%，女子29.5%であった。次いで，「できないから」男子19.1%，女子23.0%，第3位は「負けてばかりいるから」男子19.1%，女子16.4%であった。

「勝敗や順位が生ずること」を否定した生徒に，「特にそう思う運動種目」を尋ねたところ，有効回答は55人あり，「バスケットボール」43.6%，「長距離走」20.0%，「サッカー」12.7%，バレーボール12.7%が多かった。





「教科体育の好き者，嫌い者」と「勝敗や順位が生ずること」の可否との関係をクロス集計した結果は図19に示した。「教科体育が好きな者」の「勝敗や順位が生ずること」を肯定する者は男子81.3%，女子75.0%であり，最も多かった。それに対し，「教科体育の嫌いな者」にとっては「勝敗や順位が生ずること」は否定する者が多く，男子54.5%，女子44.1%あった。

以上のことから，「勝敗や順位が生ずること」を受け入れる者と否定する者がいることで，「表裏」の現象があった。中学校学習指導要領[1]において「勝敗に対して公正な態度がとれるようにする」と指導している。果たして「公正な態度」とは「どういう態度」のことであろうか？ルールを守り，ルールに則って全力で試合をすることをいうのだろう。しかし，その結果として「勝敗」が生ずる。それにしても最終的に生ずる「勝敗」をどう扱ったらよいのだろうか。生徒は「勝つ」から「体育は好き」であり，「負ける」から「体育は嫌い」であるという。「たまには勝つこともあるし，たまには負けることもある」としたならば，「今度は勝とう」として努力することに意義があるという。しか

し「いつも勝つ者，いつも負ける者」にはどう指導したものだろうか？「やれば負ける」ことが確率的に決まっているならば，「やることを止める」ことがあってもいいのではないか？「用意ドン」で走れば，必ず「速い者と遅い者」が出る。「人には個性」があるように，「速いという個性」「遅いという個性」を認めることがあっても良いのではないか？「勝敗」は目的ではなくて，「自己に対するカンフル剤・刺激剤・動機づけ」と考えたらどうか？「勝敗」は単なる「結果」であって，「気にすることではない」としたらどうか？「勝敗や順位」の扱いは教師の指導にすべて托されている。

私たち人間は，スポーツなどの「擬戦」を，それほど「好戦的」に考える必要はないのではないか。「競争の原理」は今日的社会様態として価値あるものとされて「競争」は必要なものとされている。私たちは「勝者は栄え，敗者は滅びる」という歴史の教訓に何を学ぶのであろうか？

図19　体育授業の好き者、嫌い者と「勝敗や順位が生ずることの好き者、嫌い者」

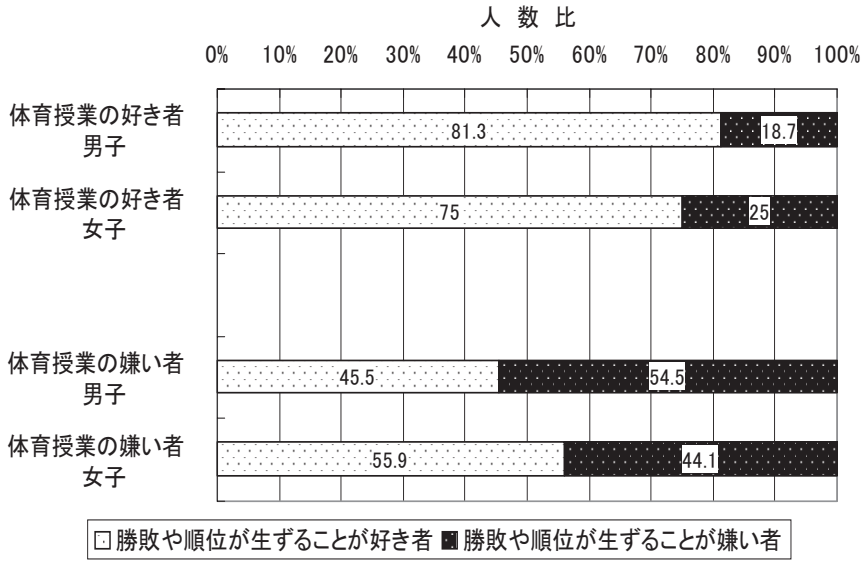
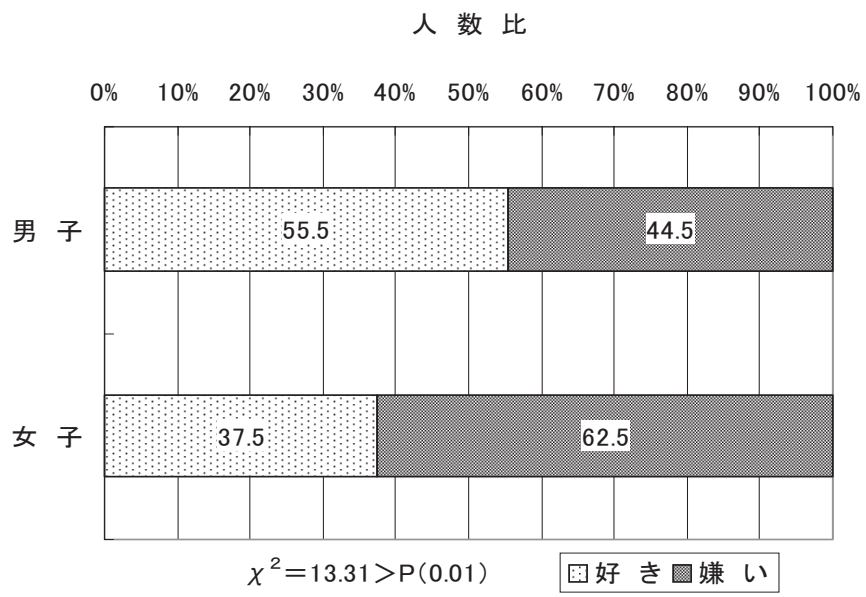


図20　生徒が評価を受けることの好き、嫌い



６．生徒が評価を受けることについて

「生徒が評価を受ける」ことの「好き・嫌い」について尋ねた結果は，図20に示した。「評価を受けることは好き」とする者は男子55.5％，女子37.5％であり，男子の方が女子より多かった（Ｐ＜0.01）。「評価を受けることは嫌い」とする者は男子44.5％，女子62.5％であった。女子の６割が「評価を受けることは嫌い」者であった。

「評価を受けることは好き」とする者にその理由を尋ねると，図21に示したように，「頑張れば，自分の努力を認めてくれて評価されるから」男子43.2％，女子54.7％で最も多かった。次いで，「先

生や友達が，自分の進歩を認めてくれて評価されるから」男子33.6%，女子30.7%，第3位は「体育に評価があるのは当たり前だから」男子12.9%，女子9.3%であった。

「評価を受けることは好き」と答えた者に「特にそう思う種目」を尋ねると，回答者92人中，「マット」44.6%，「バスケットボール」15.2%，「水泳」10.9%の順であった。「マット」と「水泳」という克己型種目で「評価を受けること」を肯定しているのが特徴的であろう。

「評価を受けることは嫌い」と答えた者に，その理由を尋ねた結果は図22に示した。「上手い，下手で評価されるから」男子48.4%，女子42.4%が最も多く，次いで「努力してもできなければ先生に認めてもらえず，評価されるから」男子18.3%，女子28.8%，「体育に評価はいらないから」男子16.1%，女子12.0%，「体育の評価が悪いから」男子12.9%，女子12.8%の順であった。

「評価を受けることは嫌い」とした者に，「特にそう思う種目」を尋ねると，回答者91人あり，「マット」35.2%，「水泳」16.5%，「長距離走」15.4%であった。これらの種目は，個人種目，克己型種目，「出来・不出来」がはっきりする種目であるのが特徴である。

「教科体育の好き者・嫌い者」と「評価を受けることの好き者・嫌い者」間とをクロス集計した結果は，図23に示した。「教科体育の好き者」の男子61.0%，女子49.6%が「評価を受けることは好き者」であったが，「教科体育の嫌い者」にとっては「評価を受けることの好き者」は男子9.1%，女子9.8%の僅かであった。このように「教科体育の嫌い者」の殆んどが「評価を

図21　生徒が評価を受けることを好きとする理由

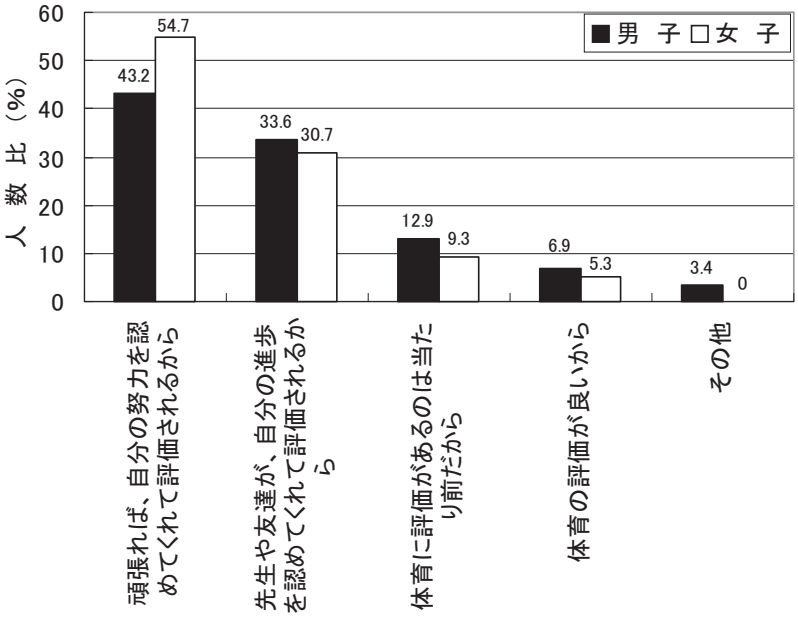
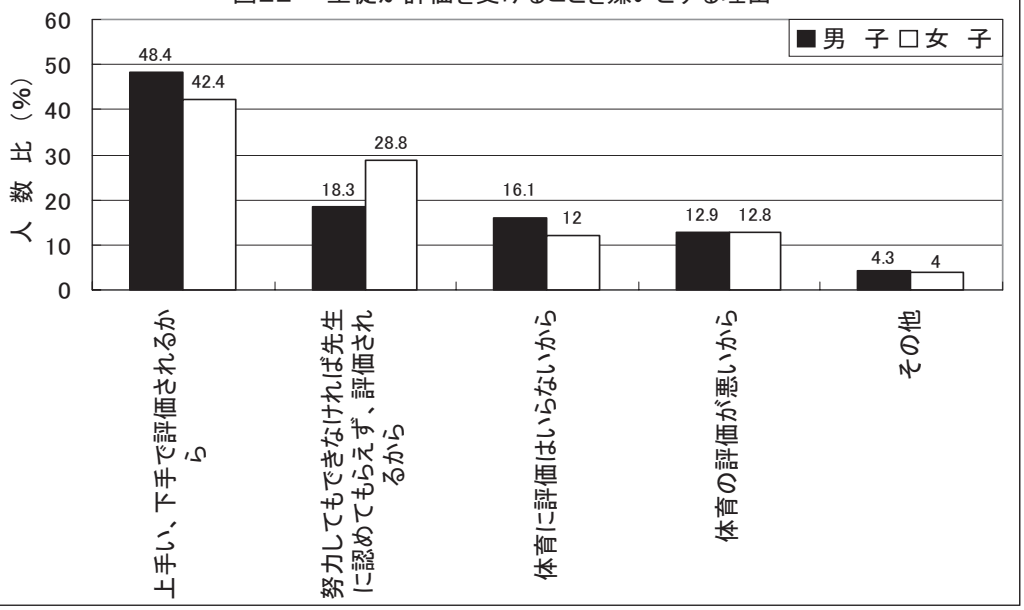
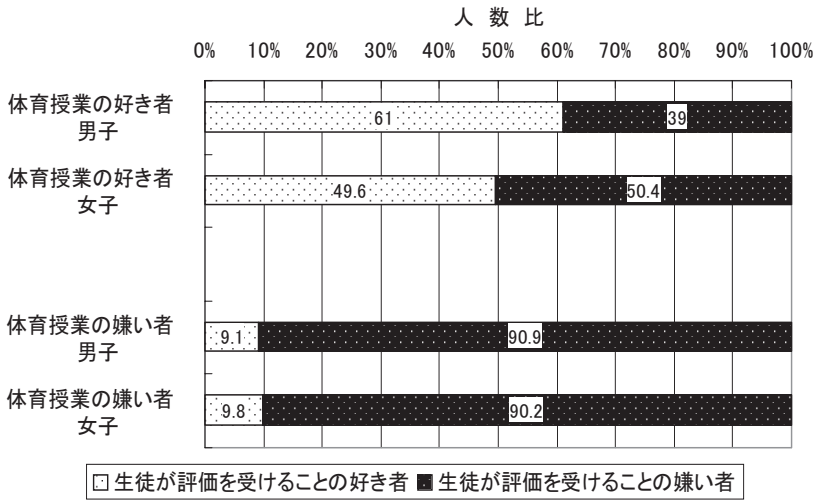


図22　生徒が評価を受けることを嫌いとする理由



受けることは嫌い」としていたことは，「当然な結果」とはいえ，「如何なものか」といえよう。以上のように生徒にとって「評価を受ける」ことは「受け入れる者」と「否定する者」がおり，「表裏」の現象があった。

図23　体育授業の好き者、嫌い者と「生徒が評価を受けることの好き者、嫌い者」



生徒にとってこれまでの評価は，「運動技能の高低」や「運動のできばえ」のみに固執した評価がなされてきたものと思われる。教育活動は明確な目的をもって営まれる活動である限り，「評価は指導と一体」として捉えられるのであり，「評価」を放棄することはできない。したがって「学習指導の考え方」をどう捉えるのかによって「評価」の仕方が変わる。池田[4]は現行の学習指導要領[1]を「新しい学力観に立つ体育科の学習指導」と表現し，次の三点を指摘している。

（一）　運動の特性にふれる指導

（二）　場の工夫を生かした活動

（三）　個に応じた指導

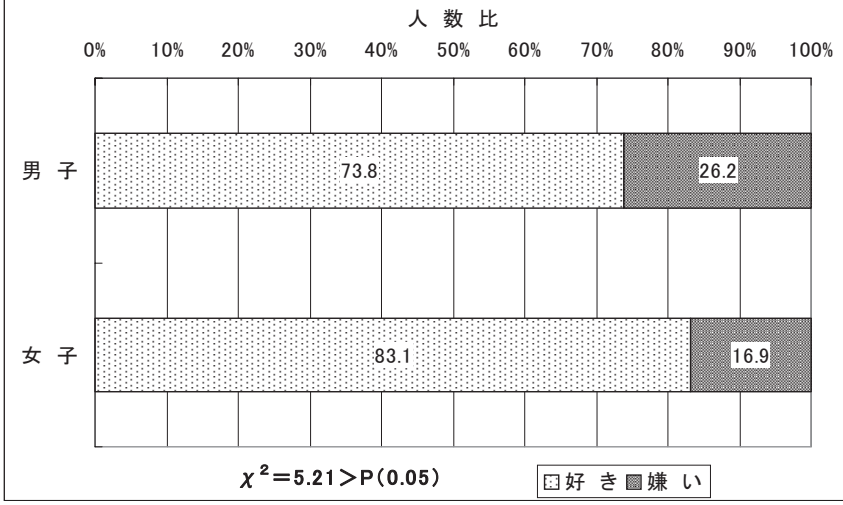
そしてその「評価」においては，「生徒一人ひとりの良さや可能性を積極的に評価し，生徒の関心・意欲や思考・判断に結びつける」ようにした上で，「技能や体力」の視点の評価を行うことを提唱している。「評価のあり方」に対する教師の研鑽が望まれる。

７．集団活動について

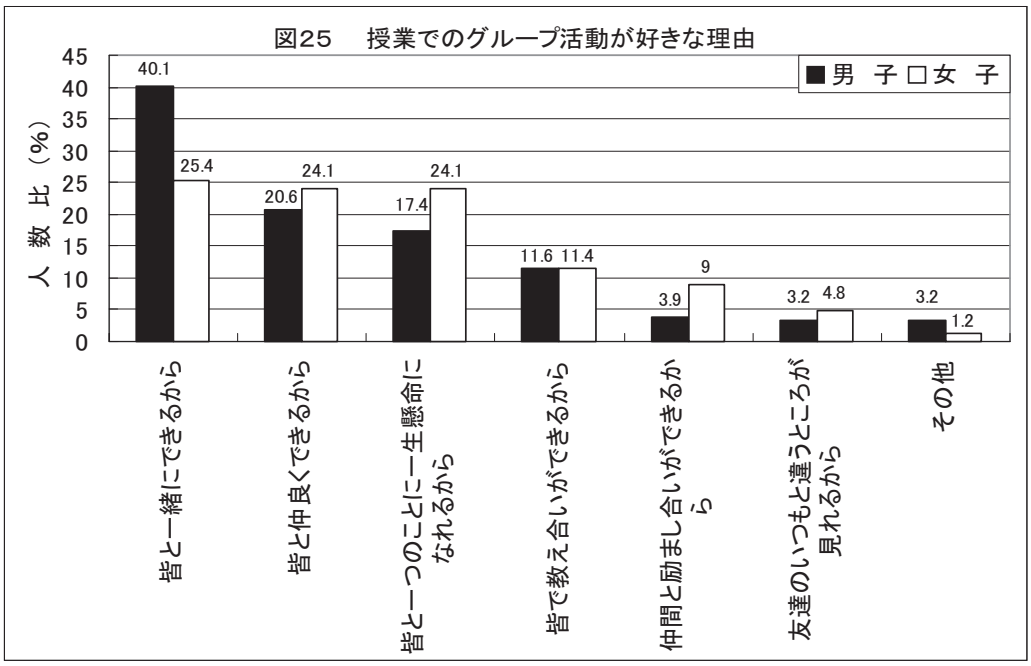
１）授業でのグループ活動について

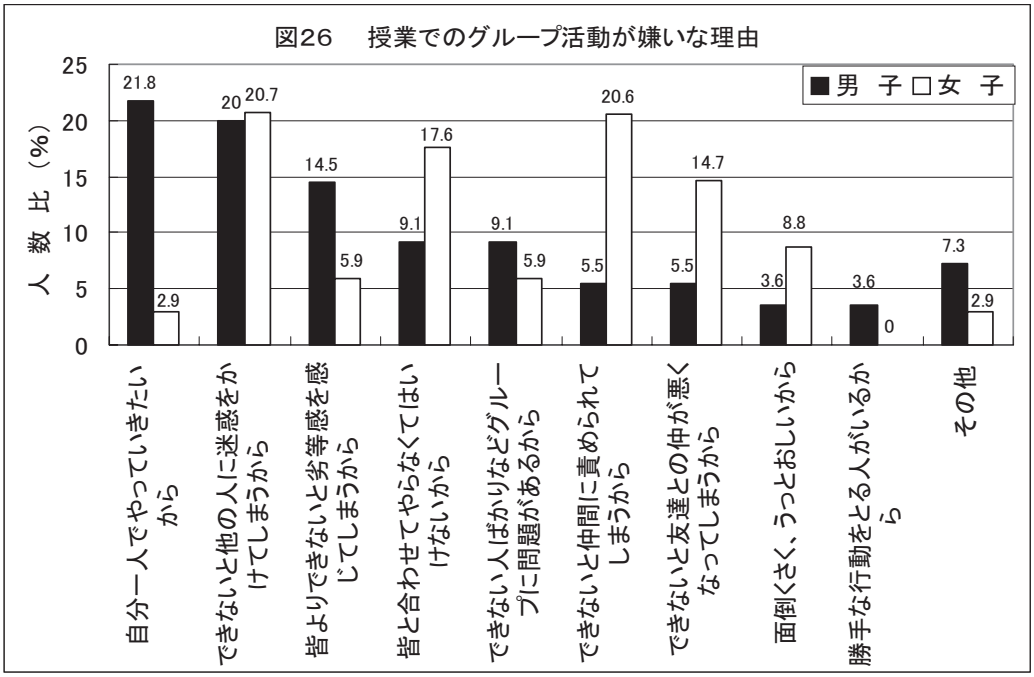
「授業でのグループ活動」の「好き・嫌い」を尋ねた結果は，図24に示した。男子の73.8％と女子の83.1％が「好き」と答えていた。「授業でのグループ活動が嫌いな者」は，男子26.2％，女子16.9％であった。「授業でのグループ活動」を肯定的に捉えている者は，男子よりも女子に多かった（P＜0.05）。このことから，「授業でのグループ活動」は，肯定する者と否定する者とがおり，「表裏」の現象が見られた。

図24　授業でのグループ活動の好き、嫌い



「授業でのグループ活動が好き」と答えた者に理由を尋ねたところ，図25のように，「皆と一緒にできるから」男子40.1％，女子25.4％であり，男子の4割





が訴えていた。次いで，「皆と仲良くできるから」男子20.6%，女子24.1%，「皆と一つのことに一生懸命になれるから」男子17.4%，女子24.1%，「皆で教え合いができるから」男子11.6%，女子11.4%の順であった。

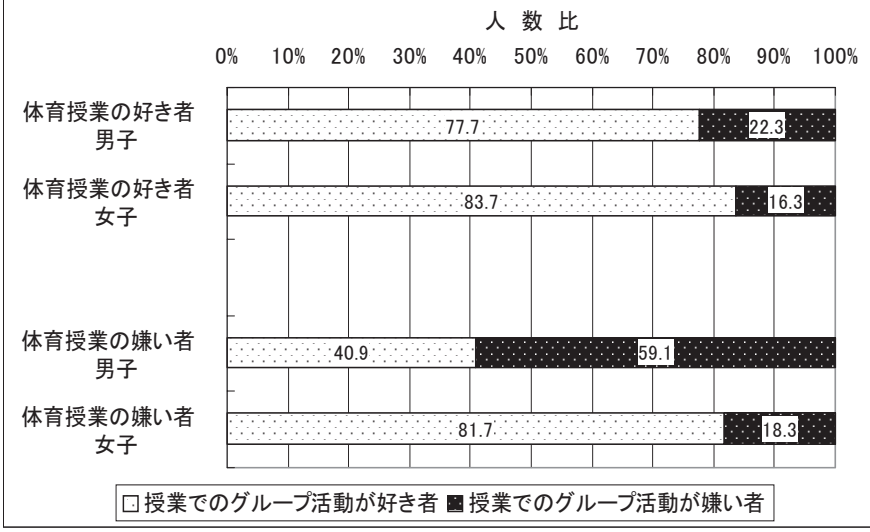
「授業でのグループ活動が好き」だと答えた者に「特にそう思う種目」を尋ねたら，195人の回答があり，「バスケットボール」33.3%，「ダンス」23.1%，「バレーボール」20.0%，「サッカー」14.9%が多く出た。これら集団種目の「バスケットボール」「バレーボール」「サッカー」の3種目を合計すると68.2%となった。

「授業でのグループ活動が嫌いな者」に理由を尋ねると，図26の通りであった。男子で多かった理由の上位3位は，「自分一人でやっていきたい」21.8%，「できないと他の人に迷惑をかけてしまうから」20.0%，「皆よりできないと劣等感を感じてしまうから」14.5%であった。女子の上位4位は，「できないと他の人に迷惑をかけてしまうから」20.7%，「できないと仲間に責められてしまうから」

20.6%，「皆と合わせてやらなくてはいけないから」17.6%，「できないと友達との仲が悪くなってしまうから」14.7%であった。

このように「できないと他の人に迷惑をかけてしまうから」という理由のみが男子第2位，女子第1位に出てきたが，残る理由は男女ともすべて別々であった。「授業でのグループ活動」が嫌いな者にとって，男女異なる理由によるという結果であった。

図27　体育授業の好き者、嫌い者と「授業でのグループ活動が好き者、嫌い者」



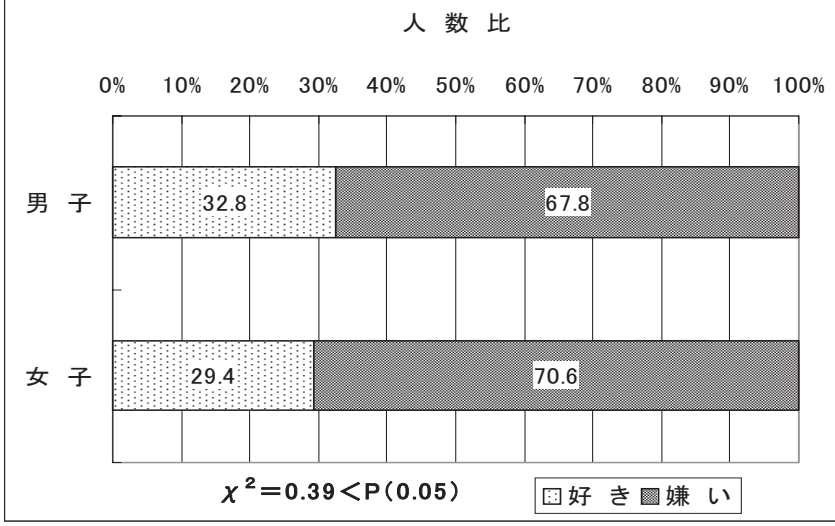
「授業でのグループ活動が嫌いな者」に「特にそう思う種目」を尋ねたところ，回答数76人中「バスケットボール」44.2%，「バレーボール」16.3%，「サッカー」14.0%というのが多かった。これら種目は，すべて球技型の集団種目であった。

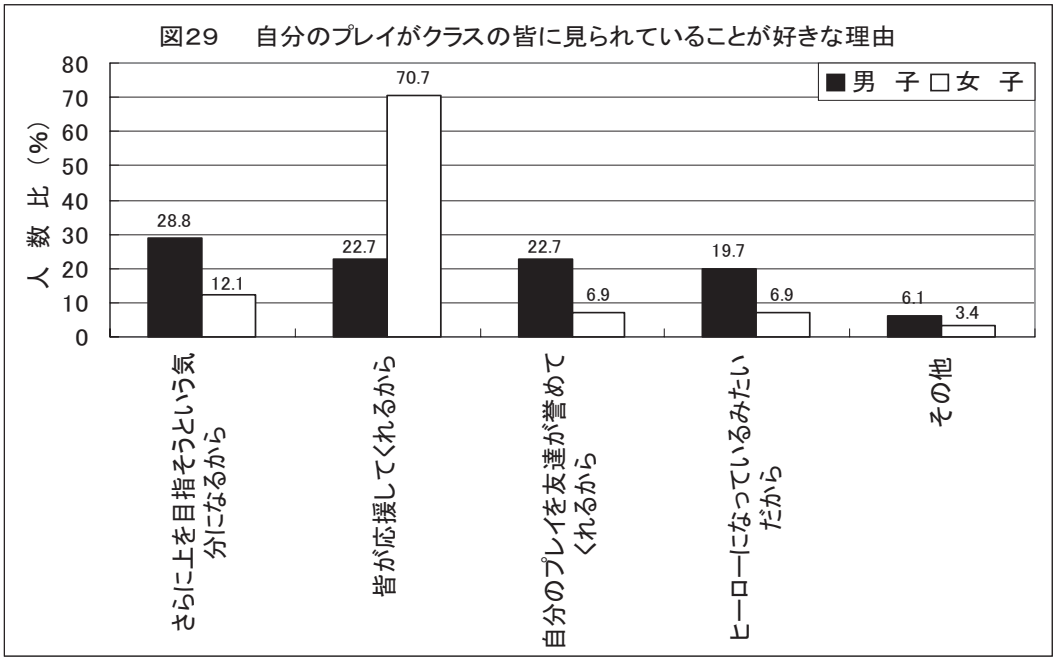
「教科体育の好き者・嫌い者」と「授業でのグループ活動が好き者・嫌い者」との間のクロス集計の結果は，図27にし示した。「教科体育の好き者」は「授業でのグループ活動が好き者」が多く，男子77.7%女子83.7%であった。それに対し「教科体育が嫌い者」の男子は「授業でのグループ活動が嫌い者」が59.1%もいたのに，女子の「授業でのグループ活動が嫌い者は僅か18.3%と少なかった。女子は「教科体育が好き」であろうと「嫌い」であろうと「授業でのグループ活動」が好きな者が多いということである。

2）自分のプレイがクラスの皆に見られていることについて

「自分のプレイがクラスの皆に見られていることについて」の「好き，嫌い」を尋ねた結果は，図28に示した。「自分のプレイがクラスの皆に見られていること」を「肯定した者」は，男子32.8%，女子29.4%と約3割と少なかった。男女間に有意差はなかった。それに対して，「自分のプレイがクラスの皆に見られていること」を「否定する者」は多く，男子68.7%，女子70.6%であった。このように「自分のプレイがクラスの皆に見られていることについて」は約7割が否定しており，「表裏」の現

図28　自分のプレイがクラスの皆に見られていることの好き、嫌い



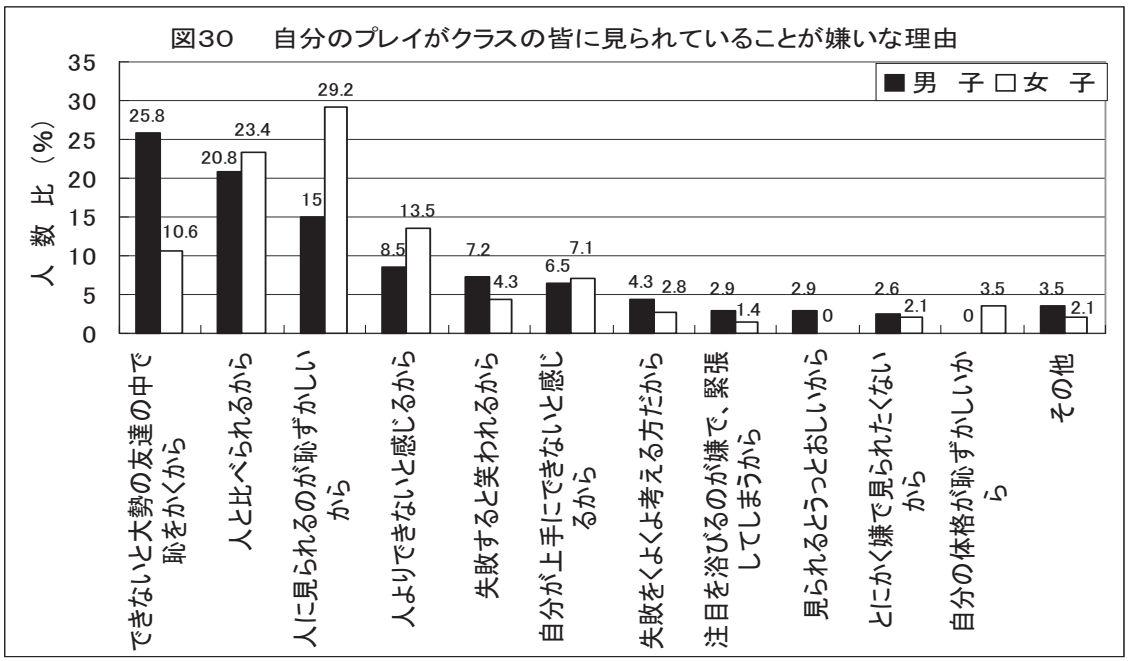


象があった。

「自分のプレイがクラスの皆に見られている」ことは「好き者」に，その理由を尋ねると，図29のように，男子は「さらに上を目指そうという気分になるから」28.8%，「皆が応援してくれるから」22.7%，「自分のプレイを友達が誉めてくれるから」22.7%，「ヒーローになっているみたいだから」19.7%で，総計87.9%を占めた。女子は「皆が応援してくれるから」70.7%が断然多く，次いで「さらに上を目指そうという気分になるから」12.1%で，総計82.8%を占めた。

「自分のプレイがクラスの皆に見られていること」は「好き者」に「特にそう思う運動種目」を尋ねると，回答者78人中「バスケットボール」38.5%，「マット」16.7%，「サッカー」15.4%が多く出た。皆が応援できる球技型種目や皆が見ながらアドバイスできる「マット」が出てきた。

「自分のプレイがクラスの皆に見られていること」は「嫌い」と答えた理由は図30に示した。「できないと大勢の友達の中で恥をかくから」男子25.8%，女子10.6%，「人と比べられるから」男子20.



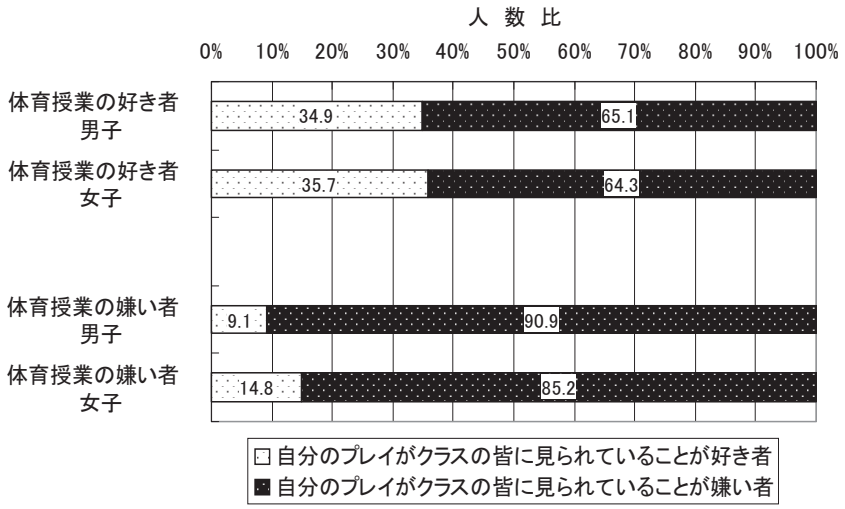
8%，女子23.4%，「人に見られるのが恥ずかしいから」男子15.0%，女子29.2%，「人よりできないと感じるから」男子8.5%，女子13.5%であり，この上位４つで総計男子70.2%，女子76.7%を占めた。

「自分のプレイがクラスの皆に見られていること」は「嫌い者」に，「特にそう思う運動種目」を尋ねたところ，134人の回答中「マット」47.8%，「バスケットボール」11.9%，「ダンス」9.0%が多かった。特に個人種目で「出来・不出来」がはっきり分かる「マット」に48%もの多くの者が集まった。

「教科体育の好き者，嫌い者」と「自分のプレイがクラスの皆に見られていることの好き者・嫌い者」との間のクロス集計の結果は，図31に示した。「教科体育が好き者」で「自分のプレイがクラスの皆に見られていることが好き者」は男子34.9%，女子35.7%の少なさであったが，「教科体育が好き者」で「自分のプレイがクラスの皆に見られていることが嫌い者」は男子65.1%，女子64.3%の多さであった。

「教科体育が嫌い者」で「自分のプレイがクラスの皆に見られていることが好き者」は男子9.1%，女子14.8%と少なく，「教科体育が嫌い者」で「自分のプレイがクラスの皆に見られていることが嫌い者」は男子90.9%，女子85.2%と非常に多かった。

図31　体育授業の好き者、嫌い者と「自分のプレイがクラスの皆にみられていることが好き者、嫌い者」



以上のように，「自分のプレイがクラスの皆に見られていることは厭だ」と思っている者は「教科体育が好き者」でも65%おり，ましてや「教科体育が嫌い者」では「自分のプレイがクラスの皆に見られていることは厭だ」とする者は85～90%もいた。中学生の時期は，思春期特有の「自我に目覚める」頃であり，「他人の目を気にしたり」，「恥ずかしがったり」，「恥をかきたくないと思ったり」，「見栄を張ったり」など複雑な心理反応をとる頃である。しかしながら，「自分のプレイがクラスの皆に見られていることのない授業」はあり得ない。教師は「プレイは失敗して当たり前」，「失敗しても笑わない」，「成功しても誇示しない」，「できなかっても責めない」「変に格好づけない」という「クラスづくり」をしなければならない。「仲間を傷つける」ことはしないという教師の「クラスづくり」が大切である。

８．生徒の意識について

１）汗をかくことについて

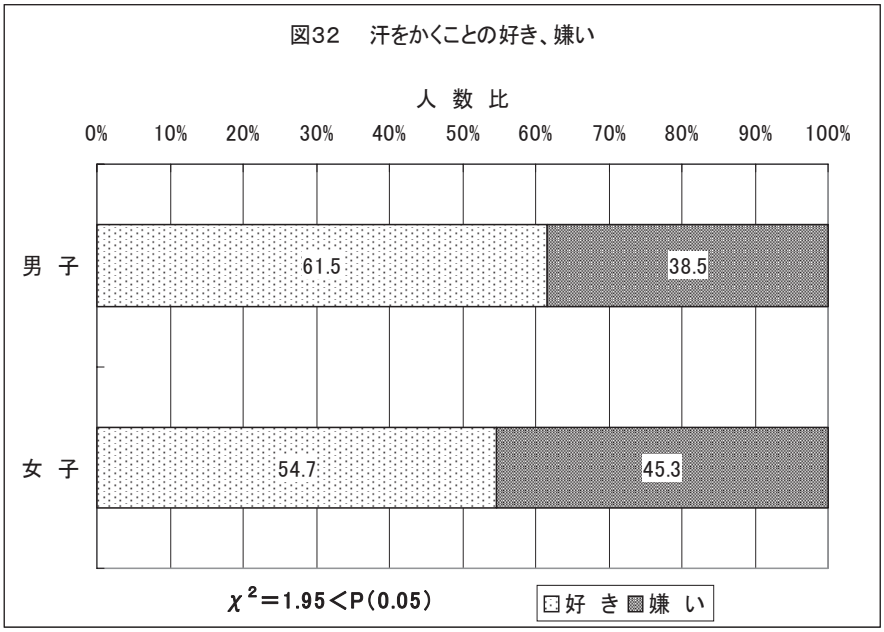
「汗をかくことの好き・嫌い」を尋ねた結果は，図32に示した。男子61.5%，女子54.7%が「汗をかくことが好き者」であった。逆に男子の38.5%，女子の45.3%が「汗をかくことは嫌い者」であった。このように男子の6割，女子の5.5割は「汗をかくこと」を受け入れていたが，男子の4割，女子の4.5割は「汗をかくこと」を嫌っており，運動して「汗をかくこと」の可否には「表裏」の現象があった。なお，統計的には男女間に有意な差はなかった。

「汗をかくことの好き者」にその理由を尋ねたところ，図33の結果であった。「運動したなという気分になるから」男子35.9%，女子28.7%，「気持ちがいいし，さわやかな気分になるから」男子24.2%，女子29.6%，「やり終えた充実感が味わえるから」男子21.1%，女子30.6%，「嫌なことが忘れられるから」男子14.1%，女子9.3%であった。この四つの理由で，男子総計95.3%女子総計98.2%を占めた。

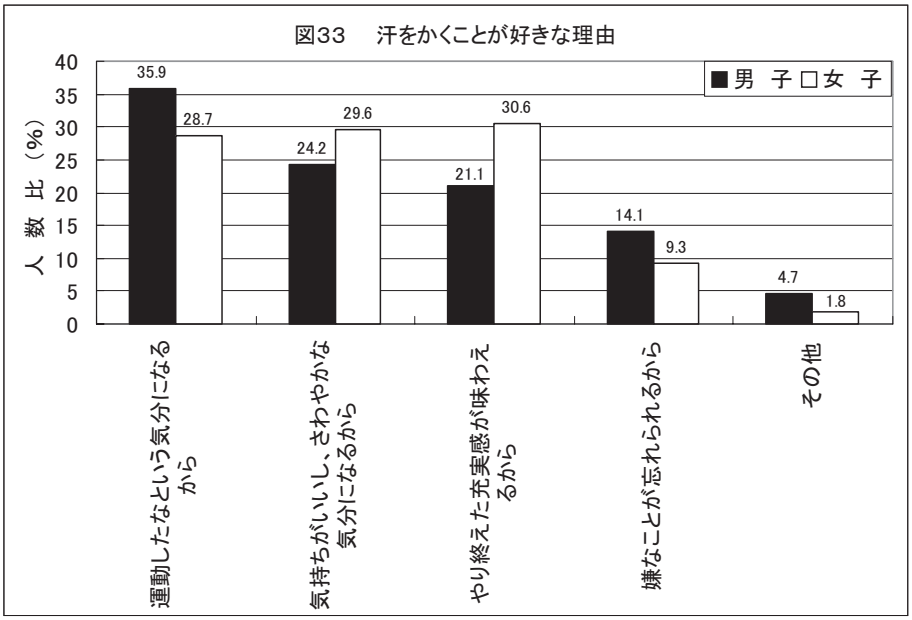
「汗をかくことの好き者」に「特にそう思う運動種目」を尋ねると，回答126人中，「バスケットボール」38.9%，「長距離走」29.4%，「サッカー」16.7%が多く出た。これら種目は，激しく動き回り，汗をいっぱいかき，多くの運動量となる3種目であった。

「汗をかくことは嫌い者」にその理由を尋ねると，図34の結果となった。「べたべたして気持ちが悪いから」男子62.0%，女子69.2%で最も多く，次いで「くたくたになって疲れるから」男子15.2%，女子19.8%，「服が汚れるから」男子8.9%，女子4.4%，「汗臭くなるから」男子7.6%，女子4.4%の順であった。

「汗をかくことは嫌い者」に「特にそう思う運動種目」を尋ねると，回答93人中，「長距離走」64.5%，「バスケットボール」17.2%が多かった。これら種目は「汗をかくから好き」である種目と同じである。



「教科体育の好き者・嫌い者」と「汗をかくことの好き者・嫌い者」とのクロス集計した結果は，図35に示した。「教科体育の好き者」で「汗をかくことの好き者」は男子63.4%，女子65.2%であり，「教科体育の好き者」で「汗をかくことは嫌い者」は男子36.6%，女子34.8%であった。それに対し「教科体育の嫌い者」で「汗をかくことの好き者」は少なく，男子45.5%，女子30.0%であった。逆に「教科体育の嫌い者」は「汗をかくことが嫌い」とする者が多く，男子54.5%，女子70.0%であった。



発汗は体温を一定に保つための生理的現象であり，それによって

健康が維持されている。「汗をかくことは嫌い」であるから，「汗をかかない生活」をしようとすれば，「大変に拘束された生活環境」すなわち「恒温室に閉じ込められた生活」をしなければならない。夏季の気温となったり，冬季でも運動すれば発汗現象は生ずるものである。このように考えれば発汗現象をそれほど嫌うことはないだろう。日本の夏の気候は高温多湿とされ，発汗とは切っても切れない関係にある。「教科体育の好き者」の約35％もの生徒が「発汗は嫌い」と訴えているが，「発汗との付き合い方」を前向きに考えるようにしたい。

一方，「教科体育の嫌い者」の男子7割，女子5.5割に「汗をかくことは嫌い者」であった。何らかの理由で「運動することは嫌い」であると，「運動は厭々やらされている」ことになろう。「厭々運動だけでも厭」なのに，ましてや「べたべたする汗は運動の厭さに拍車をかける」ことになろう。体育運動後には温水シャワーで汗を流し，さっぱりした爽やかな快感を味わい，次の授業に臨みたいもの

図34　汗をかくことが嫌いな理由

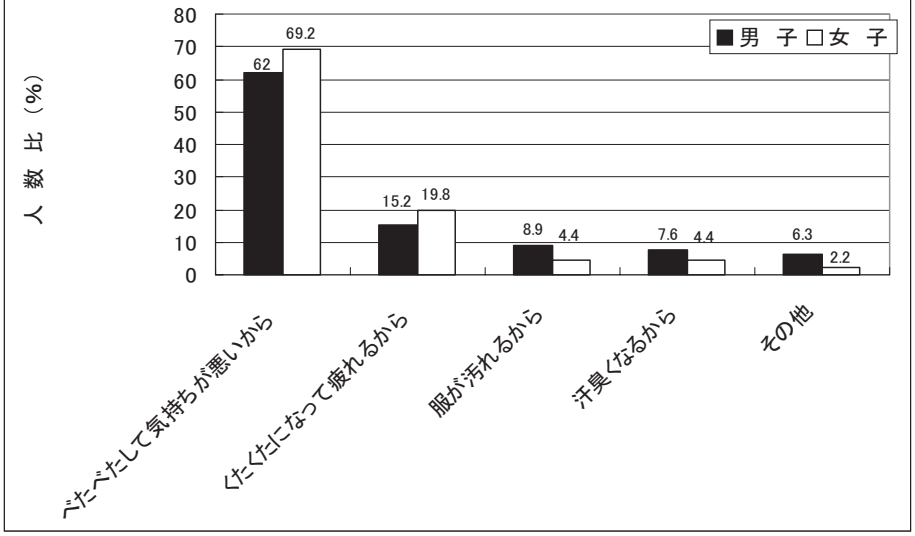


図35　体育授業の好き者、嫌い者と「汗をかくことが好き者、嫌い者」

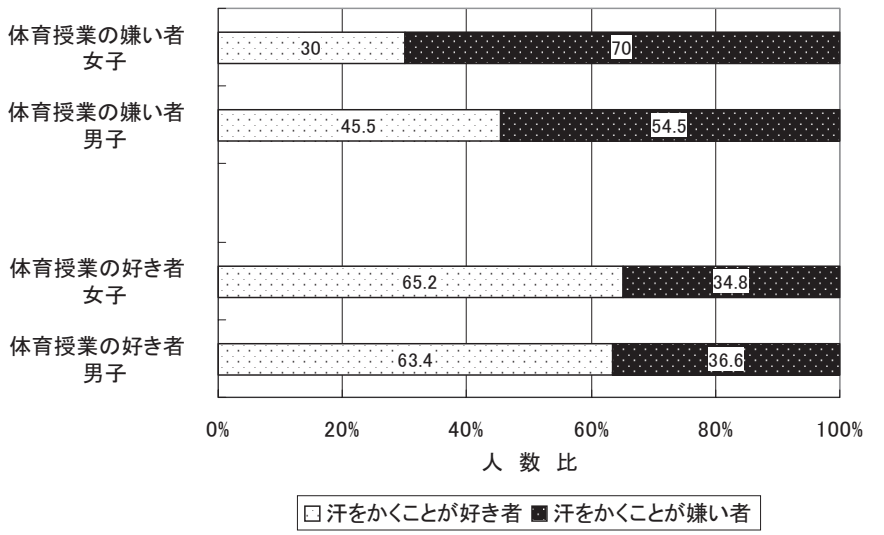
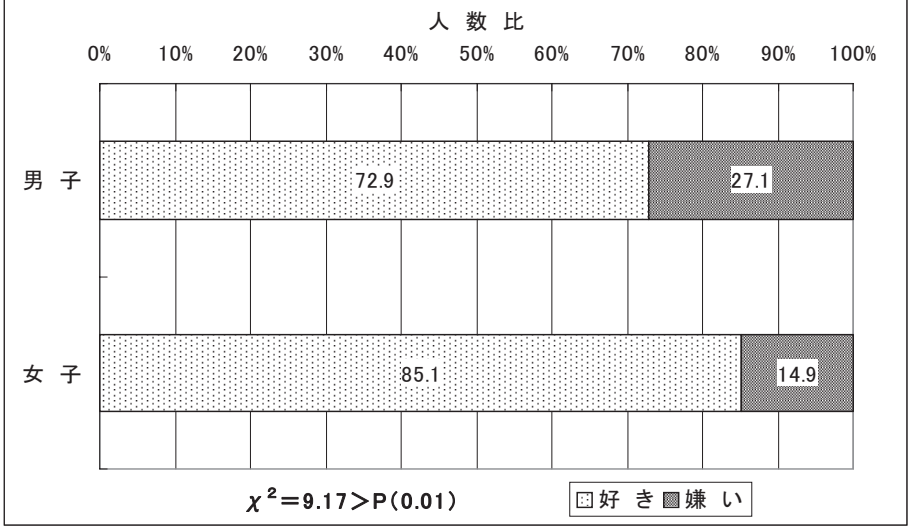


図36　簡単にできる運動の好き、嫌い



である。日本の小・中・高等学校において，温水シャワー設備を備えた学校は未だ聞いたことがないことは残念なことである。

2）簡単にできる運動について

「簡単にできる運動」の「好き・嫌い」について尋ねた結果は，図36に示した。男子の72.9%，女子の85.1%が「簡単にできる運動は好き」と答えた。「簡単にできる運動の嫌い者」は，男子27.1%，女子14.9%であった。男女間には有意な差があった（P＜0.01）。このように，男子の約7割と女子の約8.5割が「簡単にできる運動は好き」であり，男子の約3割と女子の約1.5割が「簡単にできる運動は嫌い」であり，「表裏」の現象があった。

「簡単にできる運動の好き者」にその理由を尋ねると，結果は図37に示した。「楽で，楽しいから」男子52.7%，女子59.0%，「誰でも平等にできるから」男子43.9%，女子37.0%であった。生徒は「だれにでも楽にできて，楽しい運動」が好かれるようである。

「簡単にできる運動が好き者」に「特にそう思う運動種目」を尋ねたら，135人の回答中，「マット」20.7%，「ダンス」18.5%，「柔軟体操，スポーツテスト」11.1%，「短距離走」11.1%が多く出た。

「簡単にできる運動の嫌い者」にその理由を尋ねると，図38のように，「面白くないから」男子59.6%，女子70.0%が最も多く，次いで「皆ができてしまうから」男子15.8%，女子10.0%，「皆との差がないから」男子12.3%，女子3.3%であった。

「簡単にできる運動の嫌い者」に「特にそう思う運動種目」を尋ねると，回答31人中，「マット」29.0%，「柔軟体操，スポーツテスト」25.8%が多く出た。

図37　簡単にできる運動が好きな理由

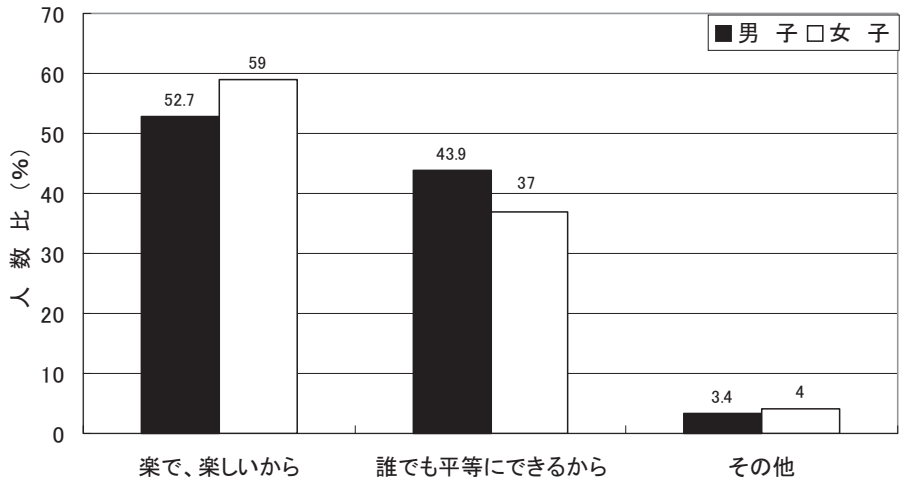
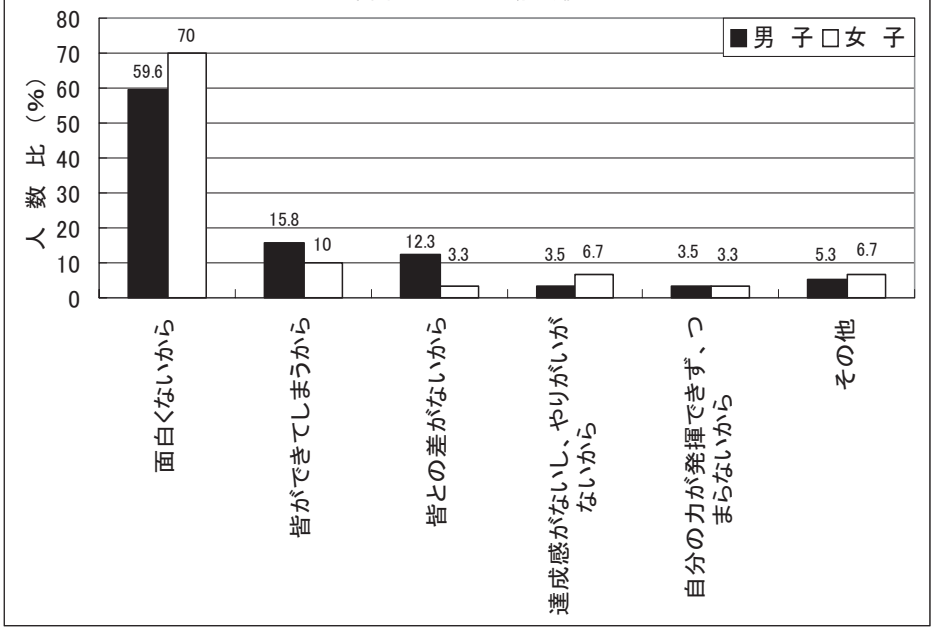


図38　簡単にできる運動は嫌いな理由



「教科体育の好き者，嫌い者」と「簡単にできる運動の好き者，嫌い者」との間をクロス集計したところ，図39のように「教科体育の好き者」は「簡単にできる運動は好き者」男子70.8％，女子83.8％であり，「簡単にできる運動は嫌い者」は男子29.2％，女子16.2％であった。

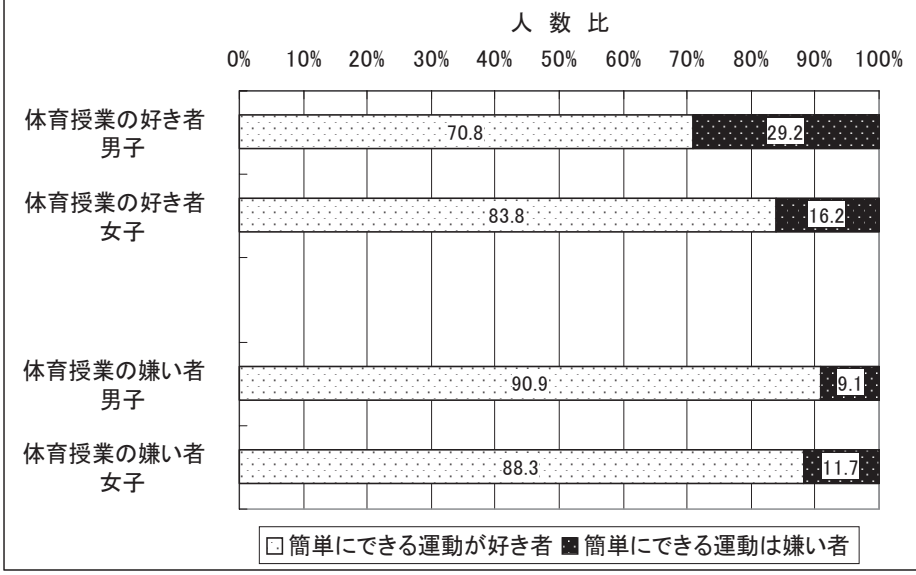


図39　体育授業の好き者、嫌い者と「簡単にできる運動の好き者、嫌い者」

これに対し，「教科体育の嫌い者」の「簡単にできる運動の好き者」は男子90.9％，女子88.3％もいた。この比率は，「教科体育の好き者」の「簡単にできる運動は好き者」よりも高い比率であった。中学生にとって，「簡単にできる運動は好き」とする者が非常に多いといえよう。

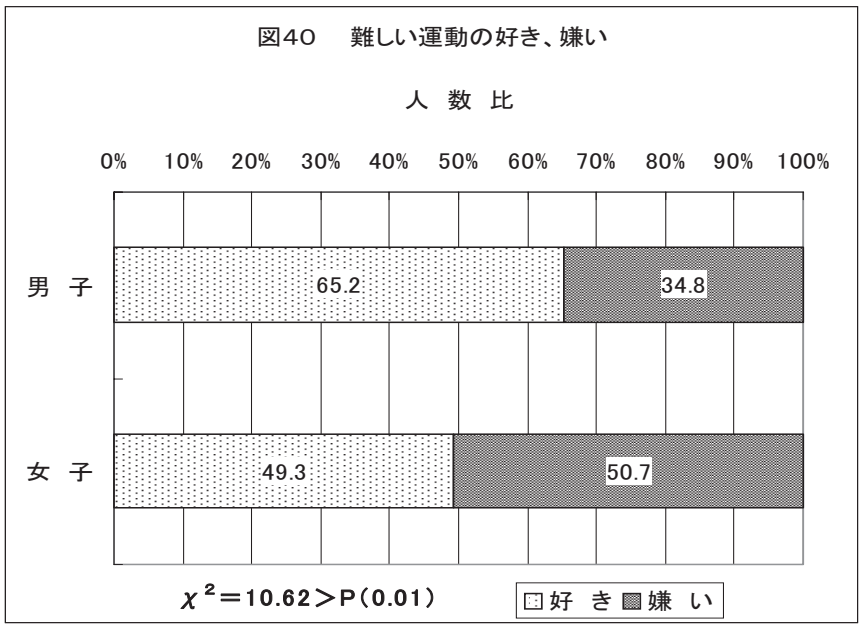


図40　難しい運動の好き、嫌い

３）難しい運動について

「難しい運動をすることは好きか，嫌いか」について尋ねた結果は，図40に示した。「好き」とする者は，男子65.2％，女子49.3％であり，「嫌い」とする者は，男子34.8％，女子50.7％であった。男女間の差は有意（Ｐ＜0.01）であった。男子の約6.5割と女子の約5割が肯定的に受け止め，男子の約3.5割と女子の約5割が否定しており，「表裏」の現象があった。

「難しい運動をすることは好きである者」にその理由を尋ねると，図41のように，「やり甲斐があるから」男子59.0％，女子55.6％，「色々な技に挑戦できるから」男子34.3％，女子40.4％であった。

「難しい運動をすることの好き者」に，「特にそう思う運動種目」を尋ねると，回答114人中，「マット」55.3％，「バスケットボール」8.8％が出た。「マット」運動の難易度の奥深さを示すものであろう。

「難しい運動をすることは嫌いである者」にその理由を尋ねたら，図42のように，「できないと惨めになるから」男子47.9％，女子51.0％，「面白くないから」男子36.6％，女子28.4％，「面倒くさく，なかなか覚えられないし，難しいから」男子11.3％，女子9.8％であった。

「難しい運動をすることは嫌いである者」に，「特にそう思う運動種目」を尋ねたら，回答84人中，

「マット」47.6%，「鉄棒」9.5%，「長距離走」8.3%が多く出た。これら運動種目は個人種目で克己型種目であり，「出来・不出来」や「技の難易度」が深い種目といえよう。

「教科体育の好き者，嫌い者」と「難しい運動をすることの好き者，嫌い者」との間のクロス集計をした結果は，図43に示した。「教科体育の好き者」にとって「難しい運動をすること」を肯定する者が多く男子71.4%，女子66.4%であった。「教科体育が好き者」であっても，「難しい運動をすること」を否定する者も男子28.6%，女子33.6%もいた。

一方，「教科体育は嫌い者」にとって「難しい運動をすることを嫌う者」は非常に多く，男子86.4%，女子90.2%であった。

生徒が「難しい運動に挑戦」する積極的な姿勢は，教師にとって待望しているところであり，歓迎するところである。こういった生徒の向上心が，あらゆる方向へ芽生えることが期待される。しかし

図41　難しい運動をすることは好きな理由

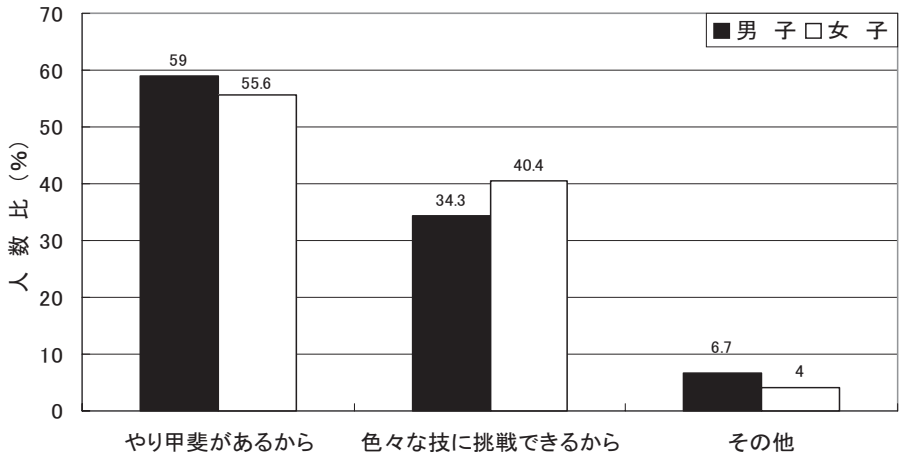


図42　難しい運動をすることは嫌いな理由

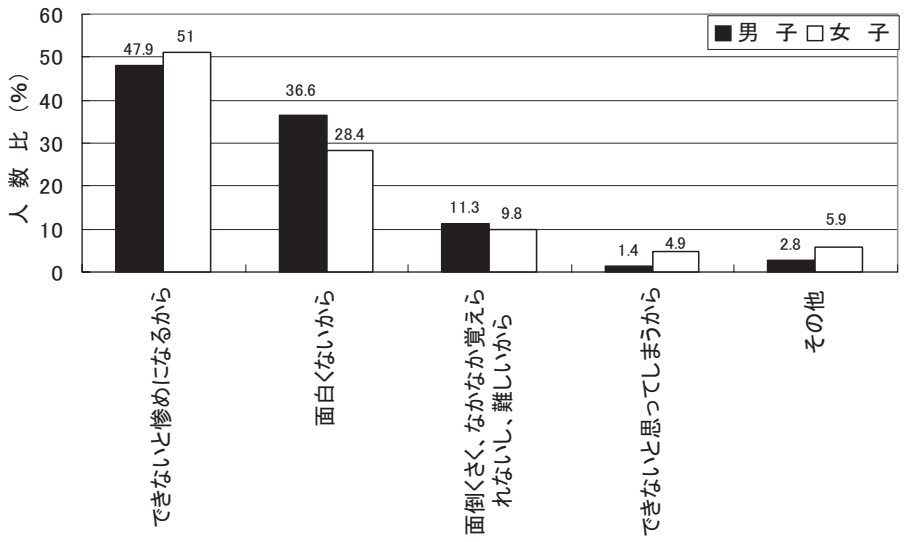
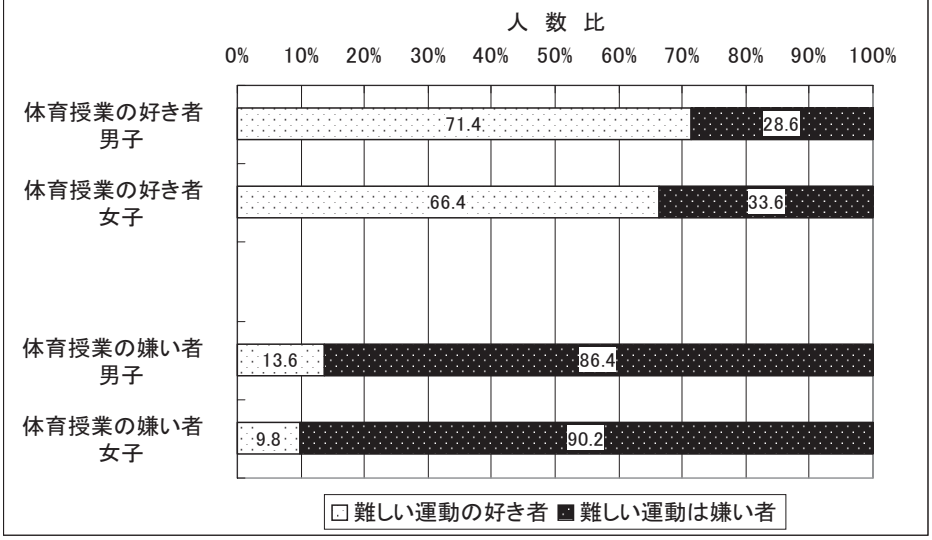


図43　体育授業の好き者、嫌い者と「難しい運動の好き者、嫌い者」



ながら今日においては，「難しいことは嫌」で，「楽なこと，安易なこと」を求めるのが普通の反応なのであろう。「パラサイト」や「フリーター」の増大，「勉強もしない，仕事もしない」といった「ニート」の増大が社会的問題となっている。「出来・不出来」だけを求めるだけでは問題であるが，「自己の向上心」だけは失いたくないものである。

９．教科体育授業で生じる「表裏」の現象について

以上，教科体育授業で生じた「表裏」の現象を，以下にまとめてみる。

１）男子，「表裏」の現象

男子の「表裏」の現象は，次のとおりであった。

「勝敗や順位が生ずること」	「表」77.5%，「裏」22.5%
「授業でのグループ活動」	「表」73.8%，「裏」26.2%
「簡単にできる運動」	「表」72.9%，「裏」27.1%
「教師の声かけ，話しかけ」	「表」69.6%，「裏」30.4%
「教師の個人指導」	「表」67.5%，「裏」32.5%
「難しい運動」	「表」65.2%，「裏」34.8%
「汗をかくこと」	「表」61.5%，「裏」38.5%
「教師が一緒に試合などに加わる」	「表」58.3%，「裏」41.7%
「生徒が評価を受けること」	「表」55.5%，「裏」44.5%
「自分のプレイがクラスの皆に見られている」	「表」32.8%，「裏」67.8%

２）女子，「表裏」の現象

女子の「表裏」の現象は，次のとおりであった。

「簡単にできる運動」	「表」85.1%，「裏」14.9%
「授業でのグループ活動」	「表」83.1%，「裏」16.9%
「教師の声かけ，話しかけ」	「表」71.4%，「裏」28.6%
「勝敗や順位が生ずる」	「表」69.3%，「裏」30.7%
「教師が一緒に試合などに加わる」	「表」57.0%，「裏」43.0%
「汗をかくこと」	「表」54.7%，「裏」45.3%
「教師の個人指導」	「表」53.8%，「裏」46.2%
「難しい運動」	「表」49.3%，「裏」50.7%
「生徒が評価を受けること」	「表」37.5%，「裏」62.5%
「自分のプレイがクラスの皆に見られている」	「表」29.4%，「裏」70.6%

以上のようにおいて，教科体育授業において生じるかも知れないと推測された10の質問内容の全てに「表裏」の現象があった。すなわち，教科体育の授業で展開されている場面のすべてに，

①「肯定し，受け入れている生徒」と「否定し，受け入れていない生徒」がいたこと。

②例えば，「授業でのグループ活動」は7割～8割が「肯定し，受け入れている」のに対し，「自分のプレイがクラスの皆に見られている」ことは約7割が「否定している」ように，「表裏」の現象に量的相違があったこと。

が分かった。

特に，「生徒が評価を受けること」および「自分のプレイがクラスの皆に見られている」ことに関する「裏」の面が，それぞれ男子44%と67%，女子62%，と70%となっていた。これ程までに「裏」の面が大きく訴えていることに関して，教師はどのように対応したものだろうか。

「個に応じた指導」，「少人数教育」，「生きる力」，「確かな学力」など今日的教育キーワードが乱立

しているのであるが，本報で取り上げた「表裏」の現象についても画一的指導では克服できないことがほとんどである。政治は反対者が少々いても，多数決で決めてすすめることができるが，教育で過半数が肯定し，賛成したからそれで良しとすることはできない。ここが教育の難しさであり，教育の悩みでもある。個を認めれば，いろいろを認めることにもなる。本報で存在した「表裏」の現象についても，これをどう解釈し，どう収拾したものか今後の問題であり，議論は尽きない。

Ⅳ．要　約

本研究の目的は，教科体育の諸実践場面で生ずる出来事が「好きか？」「嫌いか？」，すなわち，「好き」を「表」,「嫌い」を「裏」と表現した時,「表裏」の現象が見られるかどうか？および「表裏」の量的な実態はどのようであるかを明らかにすることである。調査した内容は,「体育授業の好き・嫌い」,「一番好きな運動種目」，一番嫌いな運動種目」,「教師についての質問」,「勝敗や順位についての質問」,「生徒が評価を受けることについての質問」,「集団活動についての質問」,「生徒の意識についての質問」の8項目で，全12の質問内容であり，さらに「表裏」それぞれについて「特にそう思う運動種目」を尋ねた。調査対象は中学2，3年生の総計413人であった。本調査で得られた結果を要約すると，次の通りである。

1）体育授業の「好き者」すなわち「表」は男子89.5%，女子70.0%であり,「嫌い者」すなわち「裏」は男子10.5%，女子30.0%であった。

2）「一番好きな運動種目」は，男子「サッカー」30.2%,「バスケットボール」26.3%，女子バレーボール」25.5%,「バスケットボール」25.3%,「ダンス」10.7%であった。

3）「一番嫌いな運動種目」は，男子「長距離走」23.4%,「ダンス」19.4%,「剣道」18.0%,「水泳」10.1%，女子「長距離走」49.2%,「水泳」13.2%であった。

4）男子の「表裏」の現象は，以下の通りであった。

①「勝敗や順位が生ずること」	「表」77.5%,「裏」22.5%
②「授業でのグループ活動」	「表」73.8%,「裏」26.2%
③「簡単にできる運動」	「表」72.9%,「裏」27.1%
④「教師の声かけ，話しかけ」	「表」69.6%,「裏」30.4%
⑤「教師の個人指導」	「表」67.5%,「裏」32.5%
⑥「難しい運動」	「表」65.2%,「裏」34.8%
⑦「汗をかくこと」	「表」61.5%,「裏」38.5%
⑧「教師が一緒に試合などに加わる」	「表」58.3%,「裏」41.7%
⑨「生徒が評価を受けること」	「表」55.5%,「裏」44.5%
⑩「自分のプレイがクラスの皆に見られている」	「表」32.8%,「裏」67.8%

5）女子の「表裏」の現象は，以下の通りであった。

①「簡単にできる運動」	「表」85.1%,「裏」14.9%
②「授業でのグループ活動」	「表」83.1%,「裏」16.9%
③「教師の声かけ，話しかけ」	「表」71.4%,「裏」28.6%
④「勝敗や順位が生ずる」	「表」69.3%,「裏」30.7%
⑤「教師が一緒に試合などに加わる」	「表」57.0%,「裏」43.0%
⑥「汗をかくこと」	「表」54.7%,「裏」45.3%
⑦「教師の個人指導」	「表」53.8%,「裏」46.2%
⑧「難しい運動」	「表」49.3%,「裏」50.7%
⑨「生徒が評価を受けること」	「表」37.5%,「裏」62.5%
⑩「自分のプレイがクラスの皆に見られている」	「表」29.4%,「裏」70.6%

６）上記質問内容の各「表裏」の現象が現れた理由と「特にそう思う運動種目」を調べた。
７）「教科体育の好き者すなわち表，嫌い者すなわち裏」と各質問内容の「表裏」現象との間のクロス集計を行い，「教科体育の好き者」および「教科体育の嫌い者」と各「表裏」の関係を調べた。

文　献

１）文部省（1999）：中学校学習指導要領解説　保健体育編，東山書房.
２）渡邊義行，原田憲一，杉森弘幸，牧野多紀子，廣瀬治良，藤田忠久，川口信司，丹羽美彦（1996）：小学校高学年と中学校の教科体育の好・嫌に関する調査研究，岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告，16（1），18－32.
３）渡邊義行，原田憲一，杉森弘幸，大梅美香（1997）：運動および教科体育の好・嫌に関する調査研究，岐阜大学教育学部研究報告（自然科学），21（2），143－156.
４）　池田延行（1994）：池田延行，細江文利，村田芳子編著：体育科の学習活動と評価カード，4－6，小学館.